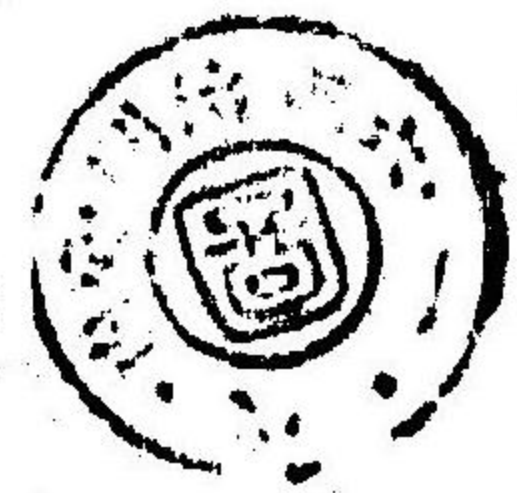


中等
教育教授法研究會編纂

下卷



最新
外國地理教科書

東京

六盟館

最新外國地理教科書下卷目次

第五章 アメリカ 一

總論 一

境域 區劃 沿岸 地勢 山系 低地 水系

氣候 天産物

北アメリカ 九

一 グリーンランド 九

二 イギリス領北アメリカ 九

三 アメリカ合衆國 一三

四 メキシコ 二六

五 中央アメリカ 三〇

六 西インド……………三二

南アメリカ……………三四

一 コロンビア……………三四

二 ペネスエラ……………三五

三 グイアナ……………三六

四 プラヨル……………三六

五 バラグアイ……………三八

六 ウルグアイ……………三八

七 アルヘンテナ……………三九

八 ナレ……………四二

九 ボリビア……………四三

十 ヘル……………四三

十一 エクアドル……………四五

括論……………四五

住民 生業 交通 沿革……………四八

結論……………四八

地文地理と人文地理……………四八

水陸分の布 火山及地震の分布 風 海流……………五一

人種及人口……………五五

言語文化の程度及風俗……………五八

宗教……………六二

教育……………六四

政治……………六六

生業……………六六

農業附 牧畜業 製糖業 蠶絲業……………六八

林業……………七五

鑛業……………七七

水産業……………八一

工業……………八三

商業……………八六

交通……………九一

水路 鐵道 郵便 電信 電話……………一〇五

列國の領土、富力、兵力……………一二四

領土 國民の所得 財政 國防……………一二四

外交及世界に於ける日本の地位……………一二五

日英同盟……………一二五

目次終

最新外國地理教科書下卷

中等教授法研究會編纂

第五章 アメリカ (America)

總論

(一)西曆千四百九十二年

●境域 アメリカは、^(一) Columbus の發見せし地にして西半球に位置を占め、北は北極洋に入り、東は大西洋を隔て、ヨーロッパ及アフリカに對し、南は南極洋に臨み、西は太平洋を隔て、^(二) Panama 及びオーストラリアと相對せり。而して、^(三) Panama 地峽によりて北アメリカ・南アメリカの兩大陸に別たれ。屬

島を合して全面積凡二百六十萬方里あり。

北アメリカ——面積百四十五萬方里——人口九百萬
南アメリカ——面積百十七萬五千方里——人口三百五十萬

● 區劃 アメリカは政治上左の如く區分せらる。

○ 北アメリカ (North America)

- グリーンランド
Greenland
- アメリカ合衆國
United States of N. A.
- 中央アメリカ
Central America
- イギリス領北アメリカ
British North America
- メキシコ
Mexico
- 西インド
West Indies

○ 南アメリカ (South America)

- エクアドル
Ecuador
- ペルー
Peru
- アルゼンチナ
Argentina
- ボリビア
Bolivia
- チリ
Chile
- パラグアイ
Paraguay
- ベネズエラ
Venezuela
- ブラジル
Brazil

ウルグアイ
Uruguay

グイアナ
Guiana

● 沿岸 北アメリカの海岸は出入稍多くして、北及東南には大なる群島を有すれども、南アメリカは極めて簡單なり。東北にグリーンランドあり、其西方のデービス海峡を渡れば北アメリカの北極群島なり、其南にハドソン灣・ラブラドル半島出入し、その東にニューファンドランド島横れり、これより南すればフロリダ半島突出してユカタン半島と相對し、メキシコ灣を擁し南にカリブ海あり、西インド諸島散在す、又南アメリカの南端にはフークランド島及フェロ地方横れり、而して太平洋岸にはカリフォルニア半島・アラスカ半島突出せり。

●地勢北アメリカと南アメリカとは地勢酷似し、共に北



北アメリカ地形勢圖

に廣くして南に狭く三角形を成す、各大陸には東西兩側に大山脈に連亘し、其間に大平原ありて大河流る

四



南アメリカ地形勢圖

又北方には各、大なる群島横れり。●山系南北アメリカの西側を縦

貫する大山脈をコルチレラ山系と稱し、其南アメリカの南端ホルン岬よりパナマ地峽に至るものをアンデス山脈と

Cordillera

C. Horn

Andes

云ふ又パナマ地峡より中央アメリカ・メキシコの高原となり、アラスカ半島に達するものを**ロッキー山脈**と稱す。●**ロッキー山脈**は中部にて**シエラネバダ** Sierra Nevada **カスケードレンジ** Cascade Range と駢走し其間に大高原を包めり、又大西洋岸には低き**アレガニ** Alleghany 山脈連亘す。●アンデス山脈は二千里に連なる世界最長の山脈にして脈中**アコンカグア** Aconcagua **コトバクシ** Cotopaxi 等の火山聳ゆ、又大西洋岸には低き**ブラジル山脈** Brazil あり。

●**低地** 北に北極群島の低地あり、其南の**ミシシッピ** Mississippi 大平野は世界第一の大沃野なり、南アメリカにはオリノコ河畔に**アマゾン** Amazon の低地は大森林を以て被はれセルマスと稱す、**アマゾン** Amazon 河の低地には**パンパス** 草原あり。

(-) 内にプリエリーを含む

●**水系** アメリカは平野の大なるものあるが爲に河流湖沼多く世界第一の大河及長流あり、而して北アメリカの四大河は**ミシシッピ河** St. Lawrence **セントローレンス河** Mackenzie **マツケンジ** Sasatchewan **河** **アマゾン河** **オ** **リノコ河** **ラブラタ河** なり。

湖沼は南アメリカに少なく**チカ** Ticaca、**湖** (海面上) 一萬二千尺にあり(を著しとす、北アメリカには最夥多にして**グレート** Great **ベア** Bear **グレートスレブ** Superior **ニューベリオル** Michigan **ミシガ** Huron **ン** **イリー** Erie **オンタリオ** Ontario 等の著大なるものあり。

●**氣候** 北アメリカは熱・温・寒三帯に跨り、東西兩側に山脈連亘するを以て、その間の**大平原**は、寒風北より吹き、暖風南より來るも、更に其進行を妨ぐるものなく、之が爲に北部は

嚴寒にして、南部は稍溫暖なり、又太平洋岸は山脈及海流の影響を受け、大西洋岸より溫暖にして且雨量多し。南アメリカは大部分熱帯に位し、東南風常に濕風を持來るを以て、氣候酷熱にして降雨多量なり、然れども南端は寒氣強し。

●天産物 動物は鳥類及昆蟲に富み、ヒョウ亞獅、クマ樹獺、クマ犽狢、クマ食蟻獸、クマ野牛、クマ鷲等の特産ありて、又普通の家畜多し、クマワブワドル近海には海鷗、クマ白熊、クマ馴鹿等を産し、クマフラスカ近海には臘肭獸、クマ海豹、クマ海象等多く産す、植物は中央アメリカのクママホガニー樹、クマレンコーナ樹、クマ甘蔗、クマ珈琲、クマ綿、クマ小麦等にして、クマ鑛物は金、石油、石炭、銅、銀等を多額に産す。

北アメリカ (North America)

一、グリーンランド (Greenland)

北アメリカの東北にありて、寒氣激烈なり、厚き氷を以て被れたる高原にして、廣大なる氷河は峽灣に下り、破碎して冰山となり、南に流れ、暖海に至りて解く、クマ丁抹の領地にして、西南岸に僅かの殖民地あり、住民の主なるものはクマエスキモー人にして、氷を以て家を造れり、クマ海豹、クマ鯨等多く産す。

二、イギリス領北アメリカ

(British North America)

●地勢 北アメリカの北部にありて、北は北極洋に入り、東

(一)人口四萬

エベックあり材木の輸出盛なり、**ハリファクス**はノバスコ

Quebec

Halifax

シアにありて極東の要港なり、石炭魚類の輸出盛んにして

(二)人口一萬三千

英國の艦隊碇泊所なり、**バンクーバー**は太平洋岸の要港

Vancouver

にして、カナダ太平洋鐵道の終點に當り、東洋諸國より郵船

着するを以て旅客貨物輻輳し市街繁盛なり、本邦より茶生

糸雜貨を輸入し、木材、鮭等を輸出す、本邦人の居留するもの

多く我領事館あり。

●**住民** イギリス人最多く、フランス人之に次ぐ、又北部に

はエスキモー、西北地方にはアメリカインド人あり、宗教は

基督教にして、教育は普及せり。

●**政治** 英國のインドに次げる重要な領地にして、總督を

置き上下兩院の議會を設く。

●**交通** 鐵道の延長は一万七千哩に達し就中モントリールよりバンクバーに至るものを**カナダ太平洋鐵道**と稱し三千哩あり、其他セントローレンス河は冬季結氷期を除き北米合衆國との間なる湖水と共に水運に富めり。

我國との關係 カナダは東にローレンス河を控へ肥沃の地多く、天産に富むが故に有粟の地なり、殊に我邦とは海流を利用すれば帆船にても容易に交通し得べく、又西境の英領コロンビヤは日本人の移住に適する良地なれば將來我國との關係益密なるべし。

三、アメリカ合衆國 (United States)

面積六十萬方里

●**境域** 北アメリカの中部及び西北端のアラスカ半島をAlaska含める一大國にして、其面積我が國の貳十貳倍に當る。

●**地勢** 太平洋沿岸は屈曲少く、サンフランシスコ、San Francisco、Puget

ツト灣あるのみ、大西洋沿岸は出入多く、New York ニューヨーク、Cheapeake チェサピーク灣、Florida フロリダ半島、Mexico メキシコ灣等の港灣に富めり。東西兩海岸に並行して山脈あり、Alleghany アレガニー山脈は東部一体の高原をなし、Rocky ロッキー山脈はカスケード及びシエラ、Sierra Nevada シエラネバダ連脈と共に幅百里乃至三百里に亘れる西部大高原をなし、其間に大鹹湖及沙漠の大盆地をなせり、此兩山脈の間は所謂 Prairie プレリー(草原)を含める大平野にして、Mississippi ミシシッピ河の流域其全部を占む、Yukon ユコン河あるのみ、地勢によりて左の五部に分たる。

- 一、東部 早く開け商工業盛なる地方なり。
- 二、中部 地味肥沃農業盛大なる地方なり。
- 三、西方高地 高燥にして鑛業盛んなる地方なり。

(一)長さ四百五十里、深さ六十尺、断絶に絶大奇観



ナイアガラ瀑布

四、西部 地勢狭長にして氣候甚だ溫和なる地方なり。

五、Yukon ユコン河はミズリー、Arkansas アルカンサス、Ohio オハイオ等の支流と共に中部の平野を灌溉し、西方高地には Columbia コロンビア、Colorado コロラド、Rio Grande リオグランデ河等あるも多くは溪流なり、Colorado コロラド河は峡谷を以て名高し、

●水系 Missouri ミズリー、Arkansas アルカンサス、Ohio オハイオ等の支流と共に中部の平野を灌溉し、西方高地には Columbia コロンビア、Colorado コロラド、Rio Grande リオグランデ河等あるも多くは溪流なり、Colorado コロラド河は峡谷を以て名高し、

オグランド河の下流は中央平原に連る、カナダに接する地には五大湖あり、其水セントローレンス河に入る、エリー湖とオンタリオ湖の間には世界第一の**ナイアガラ瀑布**あり、
 ●**氣候** 全部温帯にあれども土地廣大なると、地勢相違の點あるとによりて、各地一樣ならされども多くは大陸性氣候なり、東北部は氣候甚だ悪しく、中央平原は南北一樣にして農耕に適し、西方高地は酷烈乾燥の地多く、農作に適せざる地あり、太平洋沿岸の地は暖流の影響を受けて、雨量多く合衆國中最温暖なる地方なり、殊にカリホルニアの如きは此國の樂園と稱せらる、アラスカは寒氣殊に甚し、
 ●**都邑** **ワシントン**はポトマック河に跨り交通の便に富み、市街端正大統領の官宅國會議事堂等の宏大なる建築物

(一) 人口八萬
(二) 人口四十萬
(三) 人口百萬

あり、我邦公使館所在地なり、南方の**リチモンド**は煙草産地の中央に位し其取引の市場なり、**ボルチモア**は煙草の輸出盛に、有名なるシヨンスホプキンス大學あり、**フィラデルフィア**はデラウェア河畔に位し、ペンカゴに次げる大都にして附近石炭・鐵・石油の産に富めるを以て商工業盛なり、此地は併て獨立を布告せしを以て有名なり、**大ニューヨーク**はハドソン河口に位し、長島前に横はり良港をなし、世界交通の要衝に當り貿易盛大なり、各種の製造亦盛にアメリカ洲第一の大都にして、又世界第二の大都會なり、我國人在留し本邦總領事館の設あり、**ボストン**は學藝の最も盛なる地にして、フランクリン其他の大家輩出せし所なり、郊外にハーバート大學あり、西南にエール大學あり、**バッファロー**はイーリ湖畔に

(四) 近傍の諸市と共に入人口三百五十萬を有し、合衆國貿易の過半は此地に行はる

(五) 人口五十萬
(六) 人口三十萬

(一)人口三十
二萬
(二)人口七十
萬

(一)人口五十
萬ありてミ
ズリ水城
の女王と稱
せらる
(二)人口三十
二萬

立ち、ナイアガラ瀑布遊覽者の集合する所にして又穀物輸
出場なり、^(一)ピッツブルグは附近の地、石油、石炭、鐵の産出に富
み工業盛大なり、^(二)シカゴはミシガン湖畔に立ち、鐵道の集合
點に位し水陸交通の便に富み、内地商業の中心市場にして、
穀物材木の輸出盛に此國第貳の大都會なり、又我が國領事
館あり、^(三)セントルイは合衆國の中央、ミズリー河の本流に會
する點に位し各地に鐵道の便を有し、東方のシンシナチ
と共に農産市場なり、^(四)ニューオーリンズはミシシッピ河の
三角洲に位し、棉花取引の盛なること世界第貳位にあり、其
西北方のインヂアン部落に住せるアメリカインド人種は
近來進歩見るべきものあれども人口は漸次減少せり、^(五)ミ
シシッピ河の支流、イェルローストン河上流地には、^(六)イェルロース
トン公園あり、風景絶佳にして有名なる間歇温泉ありて其

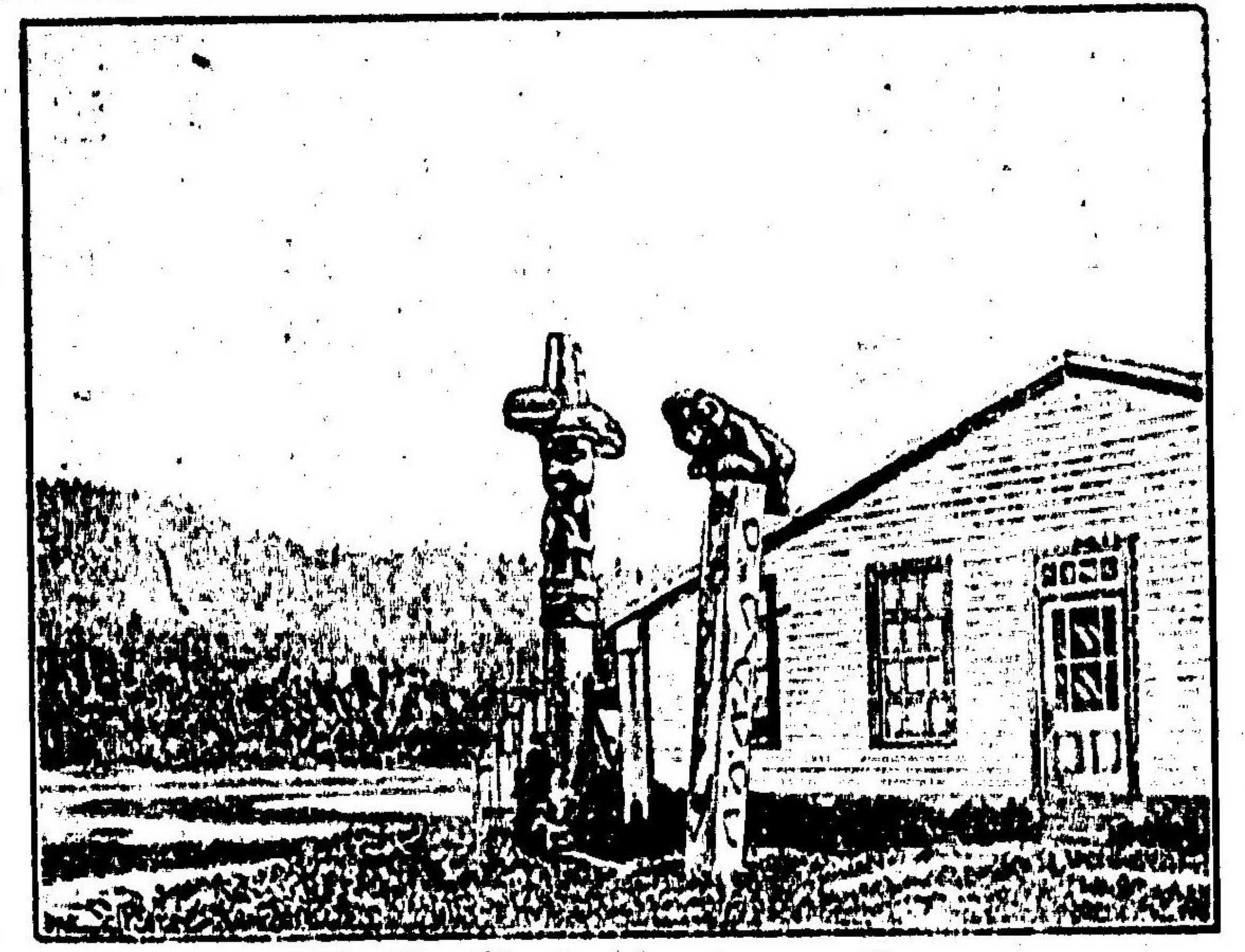
カレドニアン
レスコン

(一)人口三十
四萬

(一)面積十萬
方里人口四
萬其幅十五
里

トン公園あり、風景絶佳にして有名なる間歇温泉ありて其
幽遠なること世界に稀なり、^(一)サンフランシスコはサンフラ
ンシスコ灣に臨み太平洋沿岸に於ける重要の貿易港なり、
日本、支那及び南洋との貿易盛にして交通の要路に當れり、
我國人の在留するもの多く本邦領事館の設あり、^(二)タコマは
貿易港にして我國と茶の取引盛なり、^(三)シアトルは此地方に
於ける材木市場にして、我郵船會社の定期航路に當り、我領
事館の設けあり、^(四)アラスカ地方は半島とアレウト諸島とを含める政治區劃
にして、^(五)ベーリング海峡を隔て、^(六)アシアに對す、寒氣強く近
海水産に富み、土人はエスキモー種多く漁獵を業とす、^(七)ユ
コン河の上流地方は砂金を以て名高し、

支那人の移住は法律を以て禁止せり



カッサラ家の門

行はるゝはイギリス語にして、普通教育は普及し高等教育

●住民 人口凡八千萬ありて、イギリス人の子孫最も多数を占め、次は黒人にして総人口の十分の一あり、舊土人即インデア人は政府の保護あるにも關らず、漸次減少して現時二十五万に過ぎず、近來東洋人の移住せるもの多く十餘方に達せり、言語の廣く

戦時には國軍一十餘萬を集りしを得る例なり

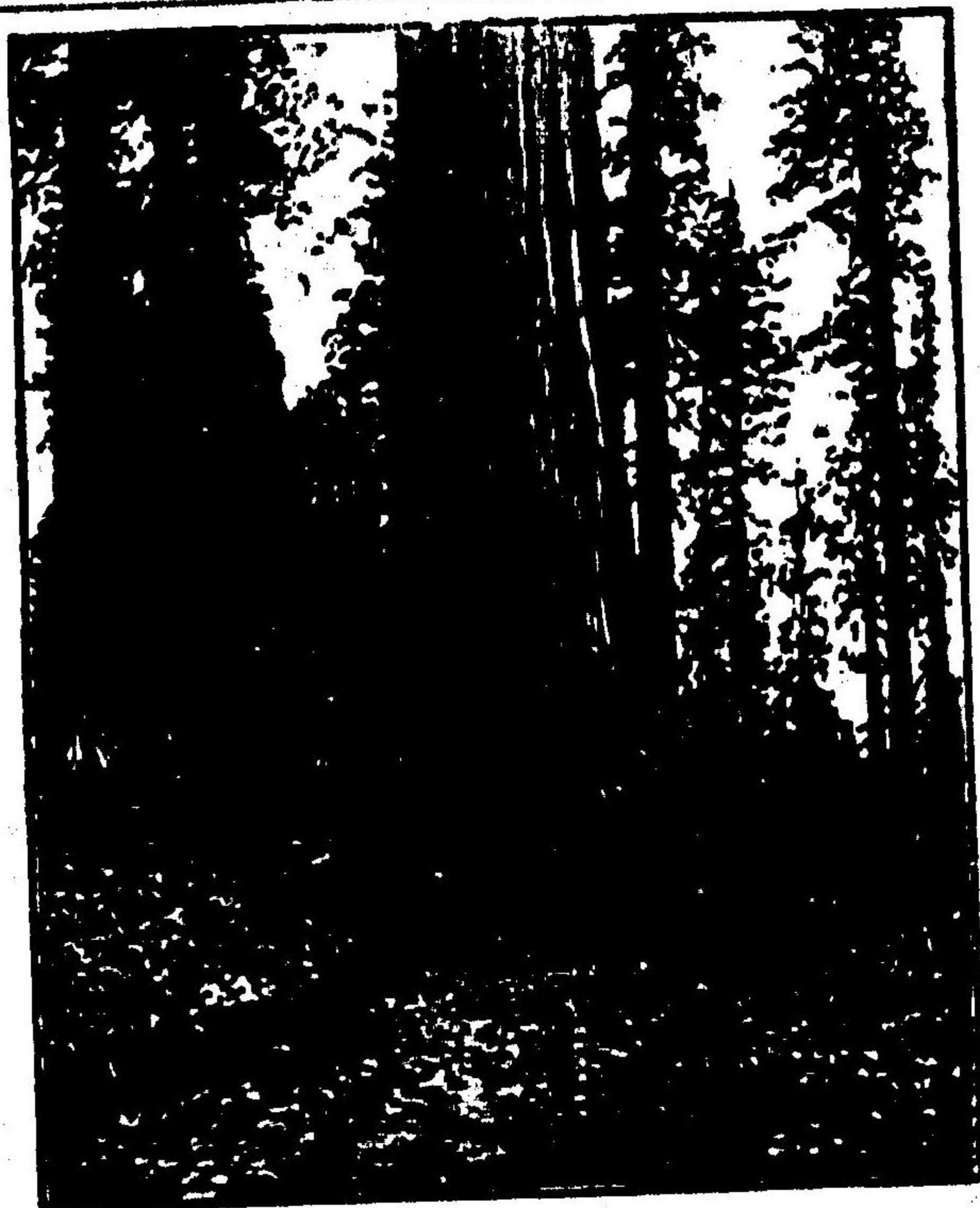
亦盛なり、宗教は人民に信仰の自由を許すとも大抵基督新教を信奉するもの多く、舊教徒も亦少なからず、國民は自由を重んじ、一般に政治思想に富み、性温厚にして信約を重んじ、進取の氣象に富み、殖産興業に巧みにして富力天下に冠たり。

●政治 立憲共和政体にして大統領を民選して行政部長となし、四年毎に之を改選す、域内を四十五州一區六地方に分つ元老院及代議院ありて立法權を掌握す、各州又自治体の政治機關を備ふ、●軍備は近時急激の進歩をなし、陸軍は平時六萬五千人、又各州には義勇兵ありて其數十餘萬に達す、海軍亦頗強大となり、軍艦百餘隻ありて海岸海面を護れり。

我國との交通は水師提督メルリの浦賀に來りしに始まり、安政に至り條約を結び、彼我の交通漸次頻繁を極め、最悪國の一たり、ウシントンに公使館及各要地に領事館を置けり。

●生業 此國は種々なる天然の財源に富めること測り知るべからざるが如し、而して其種類は所に由りて異なり、東部には畜工業盛に、中央平原は無量の農産物に富み、西方高地は世界有数の鑛山地にして、其他は森林繁茂して不毛の地一もなし、之れ此國の進歩著大なる所以なり。就中農業は主要の産業にして、國民三分ノ二は斯業に従事す、其耕作物も種類甚多く、小麥を始め玉蜀黍、燕麥、大麥、綿、煙草、麻、甘蔗、米及び馬鈴薯、甘藷、苹果、葡萄等を多く産し、其規模宏大にして機械力を應用せることは世界稀に見る所なり、中にも綿の

産額是世界第一にして、中央平原は到る所其栽培に適し、煙草は東部諸州に特に名高し、亦果物は西岸地方に多く産す。林産はロッキー山脈の東斜面一帯、東北部及び西岸諸州は世界有数の大森林にして、有用の良材を産す、カリフォルニア州に於ける大樹有名なり、牧畜亦盛にして、大國中到る所に飼養を見ざることもなく、家禽、豚、羊、牛、



カリフォルニア州に於ける大樹有名なり、牧畜亦盛にして、大國中到る所に飼養を見ざることもなく、家禽、豚、羊、牛、

馬繁殖し、其數幾許なるを知らず、殊に中央部以西。ロッキン山東の大草野を最とす、鑛産は頗豊富にして、石炭、鐵、金、銀、水銀、石油等の有用鑛物多く、殊に西方高地は金、銀、銅に富み、金、カルホルニア州の産出はフランス、スペインに次ぎ、銀（ネバダ州）は世界第一に位し、フレガニー山の兩斜面に産する石炭、鐵、鉛、石油は、實に無盡藏とも云ふべく、石炭、鐵の産出多きこと世界第一にして、炭田の面積四萬貳千方里を占め、ペンシルバニア州は其中心に當れり、我國へ輸出する石油は、其主位を占め、年々巨額に達す、北部及中央諸州の鐵は品質佳良なり、方今世界第一の鑛産に數へらるゝ所以なり、工業は其原料たる鐵、石炭に富めるを以て、盛大なること世界無比なり、東岸北部地方を中心市場とす、製造品には綿布、毛布、鐵器、造船製

革、煙草等百般の製造よく發達せり、殊に紡績機業の盛なること英國に劣らず、其盛衰は世界の市場に影響を及ぼすと云ふ、かく工業の發達せると共に、商業益盛大を極め、外國貿易はイギリス、ドイツの次に位するに至れり、其主なる輸出品は綿、麥粉、小麥、石油、肉類、煙草、鐵、柔皮等にして、輸入品は砂糖、羊毛、織物、珈琲、生糸、鐵類、藥品、茶等なり、其輸出入總額五十億圓に達す、而して此國は我國の大取引先にして、此地より棉花、石油、麥粉、小麥、皮革、建築用具、鐵類、煙草、機械用油等を我國に送り、此地へは生糸、絹織物、茶、陶器、漆器、樟腦、絹手巾、麥稈、真田及び雜貨等を輸入す、其額一億二千萬圓に達す。

●交通 鐵道組織の最も完備せる國にして、其延長十九萬四千哩に達す、殊に東岸諸州は蛛網の如く開通し、尙此所よ

ドイツ五萬
 ロシア四萬
 フランス四萬
 オーストリア三萬七千
 アハンガリ
 イギリス三萬五千
 インド二萬五千
 カナダ一萬七千
 イタリヤ一萬六千
 イスパニア一萬三千
 スウェーデン一萬
 ノールウイ
 一萬三千
 十三萬方
 人口千二百六十萬餘

り起りて西岸諸州に達する線路四條あり、北太平洋鐵道・ニオン太平洋鐵道・太西太平洋鐵道・南太平洋鐵道是なり、中央大平原に於けるミシシッピ河及北境に於ける五大湖地方は水利大なり、之と相待りて郵便電信電話の連絡せる、蓋し宇内及ぶ者なく、其交通の便利なる比類なけん、又外國航路も漸次擴張し、内外航通に要する船舶の噸數五百四十六萬の巨額に達せり。

四、メキシコ (Mexico)

●境域 北はアメリカ合衆國に接し、東はメキシコ灣に望み、南は中央アメリカに界し、西は太平洋に面す、面積我國の殆んど五倍あり。

(一)高原
 四〇〇〇尺
 乃至八〇〇尺
 (二)高さ一八〇〇尺

(三)人口凡三
 十萬海面
 七千五百
 尺の所に
 支倉六兵
 衛常長の
 所な

●地勢 高原にして、ロギー山脈の南支、北國に入りてシエラマドレ山脈となる、國中火山多く、殊に南部のポポカテペトルは、有名なる活火山にして、我富士山よりも高し、河流はグランド河を第一とす、カリホルニア半島南方に突出し同名の灣を擁す。

●氣候 乾季・雨季の二季に分る、高原は温暖にして、低地は炎熱濕潤、健康に適せず、山地は寒冷なり。

●都邑 首府メキシコは殆んど國の中央にあり、氣候溫和、市街壯麗にして、我公使館あり、ベラクルスは太西洋岸にあり、此邦第一の貿易港にして、アカプルコは太平洋岸の良港なり。

●住民 人種はインデアン種多く、又イスパニア人の子孫

五、中央アメリカ (Central America)

●**境域** メキシコの南にあり、カリブ海と、太平洋の間なる狭長の地にして、南はパナマ地峽を以て南アメリカに連る、
Caribbean Sea Panama

五共和国、一英領殖民地を含み、我國より少しく大なり。

●**地勢氣候** 山脈メキシコより來り、高原或は峻峰をなし、兩海岸に向つて傾斜す、河流は著しきものなく、有名なるニカラグワ湖より流出するサンフアン河、稍名あり、氣候はメキシコに類す。
Nicaragua San Juan

●**地方誌** **グアテマラ**は最北部を占め、首府をギーグアテマラと云ふ、Guatemala**サルバドル**はグアテマラの南にある最少の共和国なり、世界有名の藍錠を出す、首府をサンサルバドル

(一)人口百萬
面積七千二百
百五十方

と云ふ、**英領ホンチウラス**は、グアテマラの東にあり、首府をベリズと云ふ、Honduras**ホンチウラス**は中央部を占め、首府をツグレガルバと云ふ、Belize**ニカラグワ**はホンデ、フスの南にあり、首府をマナグアと云ふ、Reguigalpa Managuaニカラグワ湖はサンフアン河と共に、太西太平洋兩洋に通ずる、運河開鑿地に當るを以て有名なり。

●**コスタリカ**は、本洲の極南にあり、首府をサンホセと云ふ、Costa Rica San Jose

●**住民** 人種はインゲヤン種及び雜種なり、宗教は基督教を奉ずるもの多く、教育稍進歩せり、英領を除くの外は皆共和政体なり。

●**生業交通** 地味肥沃にして、珈琲、砂糖、藍煙草等を産し、桃心木亦少からず、工業未だ進歩せず、交通は漸次發達し、殊に**ニカラグワ運河**開鑿の暁には、スエズ運河の如く、全世界交通

貿易の關門となり、シベリア鐵道と共に、我邦に至大の影響を及ぼすに至らん。此地はもと、イスパニアの領地なりしが、獨立して聯邦共和國を建て、後數度の改革ありて、今日の各共和國となれり。

六、西インド (West Indies)

●**境域** 大西洋と、カリブ海との間に散在せる、大小千餘の群島の總稱なり。大別して、バハマ大アンチル及小アンチルの三群島とす。
Bahama Antilles

(一)バハマ群島中のワグワグ島はコロンブスが発見の際初めて上陸せし處なり

●**地勢氣候** ^(一)バハマ群島は珊瑚礁より成り、大アンチル群島は山岳多く、樹木繁茂せり。小アンチル群島には火山多し、殊に昨年佛領マルチニツクの火山噴出の如き、最慘狀を極め
Marinique

たり。熱帯中にあれとも海風の調和により、暑氣甚しからず。

●**地方誌** バハマ群島はフロリダ半島の東南にあるイギリス領なり。大アンチル群島はキューバ、ハイチ、ジャマイカ(英領)ポルトリコ(合衆國領)等を總稱す。キューバは獨立の共和國にして砂糖煙草等を産し、首府をハバナと云ふ。ハイチ島には

ハイチ及ドミニカの二共和國あり。小アンチル群島は南アメリカの北方に散在し、イギリス、フランス、オランダ等に分屬す。
Havana
Dominica

●**住民** 黒人大部を占め、イスパニア人之に次ぐ、基督舊教を奉ずるもの多く、教育稍進歩せり。

●**産業** 土地肥沃にして、砂糖、咖啡、煙草、綿、藍及種々の熱帯菓物等を産す。殊にキューバの砂糖は有名なり。

南アメリカ

本洲は新世界の南半部を占め、パナマ地峽によりて北アメリカに接す、アンデス山脈は西海岸に連亘して、本洲の主軸をなし、ブラジルの山脈副軸をなせり。アマゾン河は世界第一の大河にして、オリノコ、ラプラタ河と共に南アメリカの三大河と稱す。本洲の大部は熱帯中にあるを以て、低地は濕潤、炎熱なれども高地は氣候溫和なり。

一、コロンビア (Colombia)

南アメリカの北西隅にあり、アンデス山脈南北に連亘し、マグダレナ河其谷間を北流してカリブ海に入る。位置熱帯中

長サ三千哩
河口の面積
約二十里
リオネグロ
河を以てオ
リノコ河と
連絡す

面積八万六
千方里
人口三百九
十萬人

パナマ運河
はスエズ運
河を開鑿せ
しレヒッパ
氏が掘削に
着手せしも
成功せざり

にあるを以て低地は炎熱なれども高地は溫和なり、首府ボゴタは中央高所にあり、バランギラは此國第一の貿易港なり、パナマ・コロンは主要の港にして、鐵道を以て相連絡し、世界交通の要衝に當れり。人種はインディアン種、白人種及黒人種にして、基督舊教を國教と定め、政治は共和政體にして、教育稍普及せり。物産は幾那、煙草、珈琲、砂糖等にして、木材、礦物等又尠からず。交通は水利大にして、鐵道、電線亦進歩せり。

二、ベネズエラ (Venezuela)

コロンビアの東にあり、北部及南部は山岳重疊すれども、中部はオリノコ河流域に當り、廣大なる草原あり、氣候乾濕の二季に分れ、低地は酷熱なり、首府カラカスはカリブ海岸に

面積九万九
千方里
人口二百卅
萬人

ありて貿易盛なり、人種宗教政治はコロンビアに同じ、産物は珈琲砂糖等を最とし、草原には數萬の牛馬を飼養し、鐵物には有名なる金を出し、木材又少からず。

三、グイアナ (Guiana)

ペネヌエツの東にあり、南方には山岳連亘し、北方は平坦なり、氣候炎熱なれども、海岸は稍溫暖なり、此地はイギリス・オランダ・フランスの三國に分屬す、英領最大にして、西部を占め、蘭領は中央にして、佛領は東部なり、ジョージタウン・パパラゴ・カイエンヌ等は、地方の都會なり、人種は白人種及びインヂヤン種、黑人種にして、砂糖は物産中の第一位を占む。

四、ブラジル (Brazil)

面積三萬三千七百方里
人口三十七萬人

面積五十餘萬方里
人口千五百萬
一、シムバセと稱す
人口五十萬餘

南アメリカの東部を占め、本洲中第一の大國なり、地勢東南部は山岳重疊せる高原にして、ブワジル高原と稱し、北西部は、(一)一大平原にして、アマゾン河流域には、世界第一の大森林あり、千古の老樹鬱蒼として天を蔽ふ、氣候最南部及び高地は、稍溫暖なれども、其他は皆炎熱濕潤なり、首府リオデジアー子口は大西洋岸にあり、南アメリカ第二の大都會にして、貿易繁盛、我が公使館あり、バヒア及ペルナムブコは、共に東岸にある良港にして、貿易盛なり、人種はインヂヤン種最も多く、ポルトガル人の子孫及黑人種にして、宗教は基督舊教を國教とし、教育未だ盛んならず、政治は共和政體なり、産物は植物の種類甚だ多く、大森林よりは夥しく、木材を出し、珈琲の産額是世界第一にして、綿花砂糖護謨之れに次ぐ、其他煙

草穀類等を産す。礦物は金、金刚石等を出し、牧畜の業南部に行はる。交通機關未だ發達せざれとも、水利大なり。

五、パラグアイ (Paraguay)

(一) 一万六千五百方里
人口百三十五万

パラナ及ピルニョマ^(一) 兩河の間にある小國なり。地勢平坦にして地味肥沃氣候溫和なり。首府をアスンシオンと云ふ。住民はインディアン種白人種あり、基督舊教を國教とし、共和政體なり。パラグアイ茶等^(二)は此國重要な産物なり。

六、ウルグエイ (Uruguay)

(一) 一万二千方里
人口七十八万

ブラジルの南アルヘンテナの東にある、本洲の最小國にして、地勢高原をなし氣候溫和なり。首府モンテビデオはブラ

(一) マアと稱する野生の樹木の葉にて製す

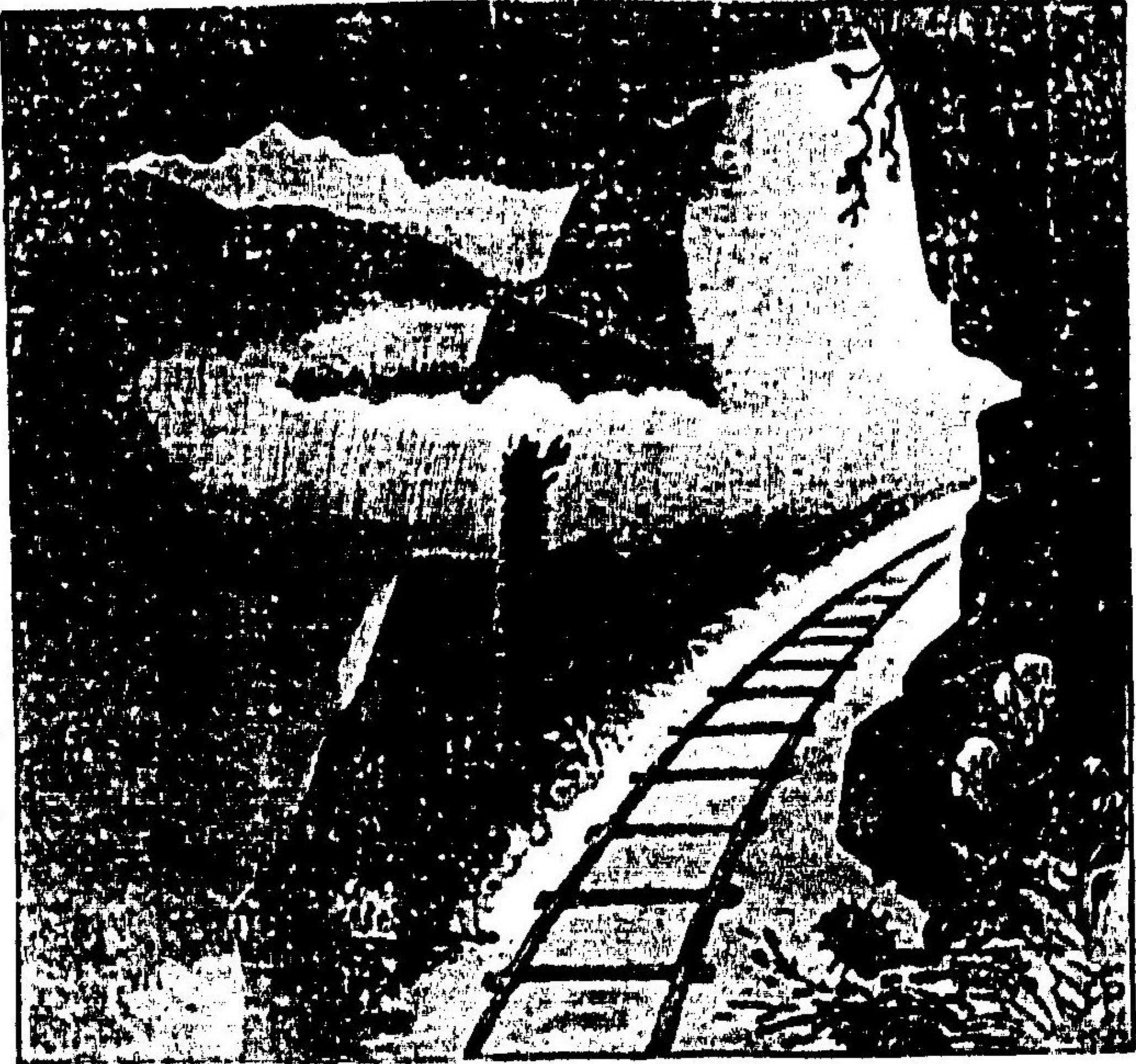
ラタ河口にあり、交通甚だ便なり、住民は白人種及雜種にして、宗教政治はパラグアイに全じく、教育稍普及す。産業は牧畜を第一とし、牛馬羊の飼養盛んなり。

七、アルヘンチナ (Argentina)

面積十八万八千方里
人口四百万

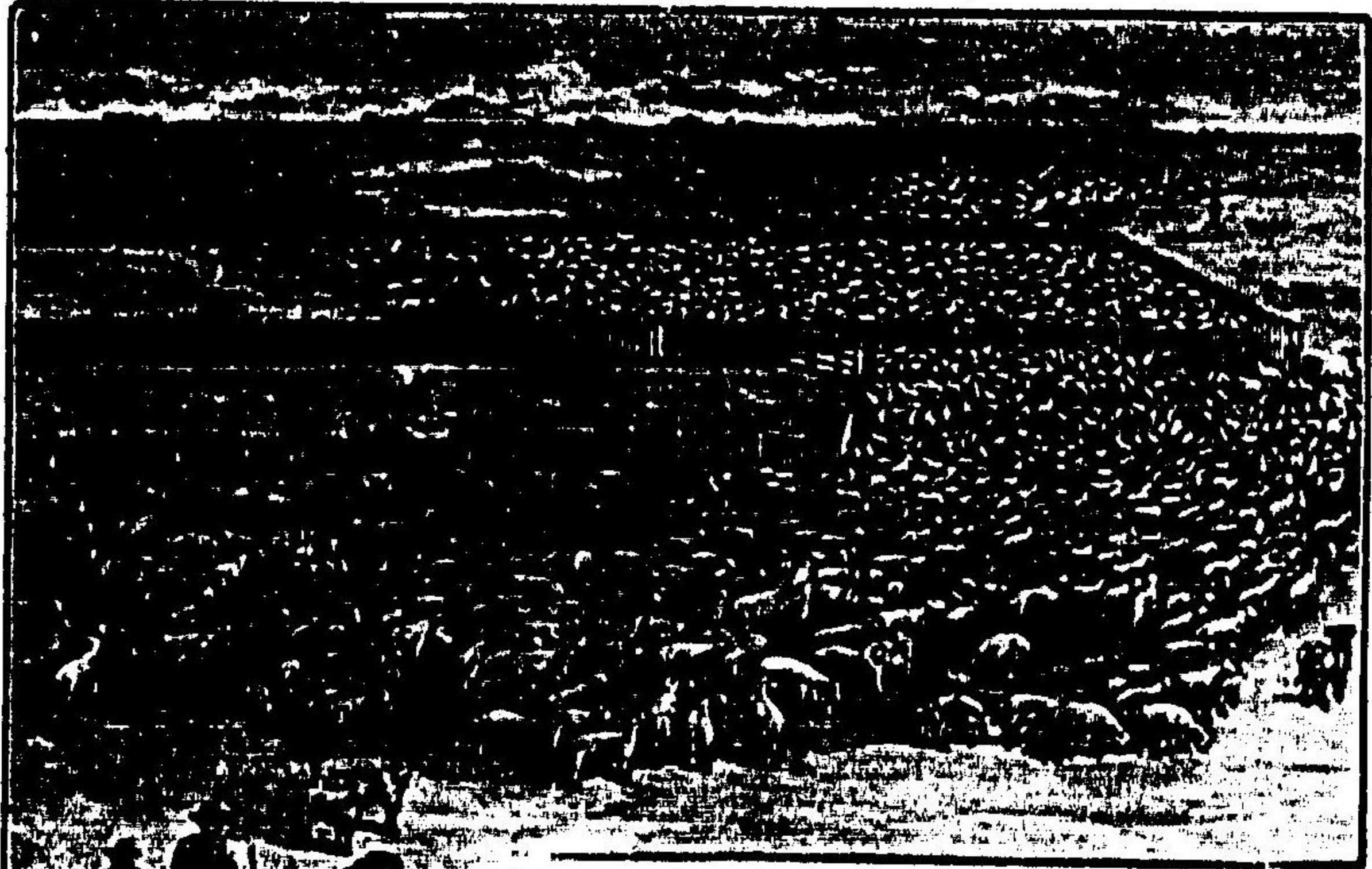
南アメリカの南部を占め、西はアンデス山脈を以てチレと境し、東部は大平原なり、此平原の南部パタゴニアは概、荒蕪たる沙原なり、中部及北部はラプラタ・コロラド兩河の流域にして、之をパンパスと稱し、雜草を蕃殖し幾億の羊馬等を飼養す。南端にはフエゴ地方あり、西半はケレに屬す、其の東方海中に英領フォークランド及サウスジョージア島あり。氣候北部は溫暖にして南部は寒冷なり、首府ブエノスアイ

線は遠くヨーロッパに連続し、郵便電信の制も亦備はる。



道 鐵 の 中 山 ス ザ ン ア

體にしてアメリカ合衆國に類似す、我が條約國なり、産物は牧産を第一とし羊毛、獸皮、肉類、獸脂等を輸出し、農産物、礦物亦甚だ多し、交通は水路甚だ便利にして、鐵道はアンデス山脈を横斷して、ナンノに通じ、海底電



場 牧 羊 の ナ ナ ン ヘル ノ

イレスはラプラタ河口にあり、水陸の交通至便にして貿易繁盛、本洲第一の大都會なり、ロサリオ、オコルドパも亦繁華の都會なり、住民はインディアン種過半を占め、白人種雜種あり、バタゴニアの土人は、軀幹大にして、狩獵を業とす、基督舊教を國教と定め、教育漸次進歩し、政治は共和政

八、チレ (Chile)

面積四万九千方里
人口三百万

アメリカの西岸にある狭長なる國なり、西は太平洋に面し、沿岸に無數の島嶼あり、東はアンデス山脈連亘し、所々に峻峯の火山ありて地震多し、氣候北部は炎熱にして、中部は溫和に、南部は寒冷なり、首府サンチアゴValparaisoは中央内地にあり、バルパライソは本洲太平洋に於ける重要なる良港なり、住民はインゲアン種多く、他は白人種及雜種なり、基督教を國教と定め、教育は稍進歩せり、政治は共和政体なり、産物は穀類善く生し、牛馬羊の飼養盛なり、鑛物は此國の富源にして銅を最とし、銀之に次ぐ、又此國にはチリ硝石及鳥糞等の特産あり、交通は海岸線長きを以て、水利大に、鐵道又備れり。

九、ボリビア (Bolivia)

面積九万四千方里
人口二百万

西部はアンデス山脈により、高原をなし、東はアマゾンラプッタ兩河により、平原をなす、此國は本洲中バラグアイと共に海に面せず、ナ、カ、湖はペルーの間に入り、氣候低地は炎熱にして、高地は清冷なり、首府をレヌエークルと云ひ、ラパスは國中第一の都會なり、住民はインゲアン種多く、他は黑人種なり、基督教を奉ずるもの多く、教育漸次進歩せり、政治は共和政体なり、鑛物及植物Chilonaの天然物多く、特にポトシーの銀、銅を最とす、交通未だ完からず。

十、ペルー (Peru)

面積七方七
千方里
人口三百方

我邦人の在
留者五百二
十名あり多
くは甘蔗裁
培に従事す

エクアドルの南にあり、西部はアンデス山脈により高原をなし、東部はアマゾン河の上流にして、稍平原をなせり、氣候



コトバトレン火山

く、他は白人種及雜種なり、基督舊教を國教と定め、教育漸次進歩す、此國昔はインカの如きインザアン人の建てし盛なる帝國ありしが、中途衰へ今は共和政體なり、我國の條約

低地は炎熱なれ

とも高地は溫暖

なり、首府リマは

繁華の都會にし

て、カウオは其貿

易港なり、住民は

インザアン種多

國なり。産物には金銅を出し、穀類、珈琲、砂糖、硝石、幾那皮、綿等を産す。交通稍進歩せり。

十一、エクアドル (Ecuador)

ペルーの北にあり、赤道下に當る、地勢高峻にして、國內山岳多く、ナムボラゾ、コトパキ等有名なる活火山あり、氣候概して炎熱なれども、高地は清涼なり、首府キトは高地にあり、氣候溫和、風景佳にして、グアヤキルは太平洋岸の要港なり、人種、宗教、教育はペルーに類似し、政治は共和政體なり、産物、コ、アを主要なるものとす、交通未だ開けず。

括論

●住民 人種は白人種・インデアン種・黒人種及雜種にして、少數のエスキモー及メスナヅ種等あり。宗教は基督教にして、北アメリカには新教多く、南アメリカは殆ど全く舊教なり。教育は放任主義多く、概して北アメリカは非常に進歩し、南アメリカは進歩しつゝあり。政治は全く共和政體にして、北アメリカの北部、西インドの一部、南アメリカ・ギアナはイギリス若しくはフランス・オランダ等に屬す。

●生業 農産物・礦物・植物・牧畜等其種類夥しく、ミシシッピ河流域地は、地味農耕に適し、穀類の産は無盡藏と稱せらる。ロッキー(金・銀・銅)アレガニー(石炭・石油・鐵)アンデス(金・銀・銅・硝石)山脈地方よりの礦産亦無盡藏の聞えあり、アマゾン河流域の大森林より木材を無限に産し、北方水産の利又少からず、商

工業共に北米は全世界に覇たらんとし、南米は猶其緒に就かざれども、交通の發達と共に後來有望なり。

●交通 北米は水陸共に至便にして、郵便・電信・電話・鐵道等の制度完備し、南米は漸次發達せんとす。

●沿革 本洲は第十六世紀の頃發見せられたるを以て新世界と稱せられ、北アメリカは殆どイギリス、南アメリカはイスパニア・ポルトガルの領地なりしが、何れも其羈絆を脱し、今日の共和政體を組織せり故に人情風俗習慣等北アメリカはイギリス國の餘流を受け、南アメリカはイスパニアに似たり。

結論

地文地理と人文地理

地文地理は地球上に起る諸現象の内、天然に關する事項を論究する學にして、水陸の區別、氣候、風雨、生物の分布、地殼及是等相互の關係、原因、結果等を究め、人文地理は、主として人事に關する事項を論究する學にして、政治上の區別、人種、人口、言語、社會、風俗、宗教、教育、政治、軍備、交通、生業等を説明するにあり。

●水陸の分布　陸地は北半球に多くして南半球に少なく、水面は全く之に相反せり、今ロンドンを一極となし、ニールンダーランドを他の一極として地球を兩半球に分つとき

(一) 陸半球と
稱す
(二) 水半球と
云ふ

は、前者は陸の大部分を含み、後者は水の大部分を含めり。世界中陸地の最高點はヒマラヤ山系中のガウリサンカルにして高さ二萬九千尺に達し、海の最深處はニールンダーランドの東方に當れる處にして、深三萬一千尺あり、又陸地の平均高さは二千尺にして、海の平均深さは一萬六千尺なり。

●火山及地震の分布　世界に於ける火山の七分の六は大西洋の沿岸に線狀に羅列して、大火山脈をなせり、其他大西洋のイストランド、アゾルスよりトリスタンダクンハに至るもの及地中海を通じて東方に擴布するもの等なり。

地震は火山の分布多き太平洋岸に甚だ多く、ロレア・レペリア・オーストラリアの内部等に最も少なし。

●風　南緯三十度と北緯三十度との間には常に一定の方

貿易風

向に吹く風あり、古來大に航海に利あるを以て之を貿易風と名づけ、赤道以北にては東北より吹き、以南にては東南より來る、此風大洋の中央にては著しく發達すれども、大陸の内地及沿海にては風向を變ずることあり、又時としては反對の方向に吹くことあり。

季候風

アジア大陸等にては、半年間は大洋に向て吹き、他の半年間は陸より大洋に向て吹く、之を季候風と稱す。●又屢々颶風の起ることありて、日本、支那の大風、西印度のハリケーン、亞米利加のトリーナド、オーストラリアのボワ等有名なり。

海流
暖流
寒流

●海流 大洋中には恰も陸地に河の流るゝが如き海水の流動あり、之を海流と稱し、暖流と寒流とあり、赤道部にて東より西に向ひて流れ、陸に衝突して東北又は東南に向ふも

五〇

のは暖流にして、黒潮及灣流の如き著しきものなり、又兩極地方より赤道に向ひて流るゝは寒流にして、ラブラドル海流、親潮の如き之なり。

人種及人口

●人種 地球上の人類は、其國土氣候等の異なるに従ひて皮膚、骨格、毛髮、性質等を異にし、多くの種類を生ずるに至れり、今之を大別して五種となす、蒙古人種、カフカス人種、アジア人種、アメリカ人種、マライ人種是なり。

蒙古人種

(イ)蒙古人種は皮膚黃色、顔面扁平、眼睛茶褐色、頭髮漆黒にして捲縮せず、鬚髯少し、カスピ海の南よりアマゾン河まで一線を引かば、其東北部のアジアに住めるものの全部及

ヨーロッパのホンガリア人、フィンランド人、ラップランド人、北アメリカの北部に住めるエスキモー人等は此種に屬せり、而して其數凡五億七千萬人あり。

種 **カフカス人**

(ロ) **カフカス人種**は皮膚白色、頭顱正圓に近く、鼻隆くして、眼晴碧色を呈し、頭髮褐色にして捲縮す。ヨーロッパの全部(蒙古人種を除く)アジアの西南部及アフリカの地中海岸に住めるもの其他世界の各地に住めるヨーロッパ人は此種に屬す。

Caucasian

アリア・ハム・セムの三大族に分つ、而して其數凡四億あり。

Aryan Hamitic Semitic

種 **アフリカ人**

(ハ) **アフリカ人種**即黑人種は、皮膚黒色にして、前額低くして傾き、頬骨突出し、鼻扁く、唇厚く、頭髮捲縮せり。アフリカの中部、及マダガスカル島の一部、オーストラリア、ニューギニア島等の土人は此種に屬す、其數凡二億あり。

African (Negro)

種 **アメリカ人**

(ニ) **アメリカ人種**は、皮膚銅色にして、頬骨高く、目凹み、鼻扁し、頭髮疎にして黒く、鬚髯少なし。アメリカの土人は此種に屬す、其數凡二千五百萬あり。

American Indian

種 **マライ人種**

(ホ) **マライ人種**は、皮膚褐色を帯び、頭髮多くして黒く、顔面廣く、頬骨高く、身體長大ならずして臺灣の一部、マライ群島、リネシアの土人は此種に屬し、二億三千万あり。

Malayan

● **人口** 地球上の人口は凡十五億ありて、其分布はアジアに最多にしてヨーロッパに次ぎ大洋洲最少なし、然れども平均一方里内の人口を比較すればヨーロッパ最多にして大洋洲最少なし。

人口三千万以上
清四億
印度三億
ロシア二億
合衆國七千九百萬
千九百萬
獨逸五千萬
六百萬

| | |
|-------|-----------|
| 人口 | 一カ里平均人口 |
| アフリカ | 八六七六〇〇〇〇〇 |
| ヨーロッパ | 三二〇 |
| アメリカ | 四〇〇〇〇〇〇〇〇 |
| マライ | 五八〇 |

●文化の度 人類の生活状態によりて文明・半開・未開・野蠻に別つ。

野蠻 此社會の人類は生活の度最低くしてアフリカ内地の黑人種、大洋洲の土人等の如き之なり、一定の住所なく樹木の空洞、土穴又は矮屋に住み蟲魚鳥獸、草根果實等を食とし、或は漁獵に従事し、暑ければ樹陰に息ひ、餓ゆれば食し、裸體にして、性質殘忍、風俗野卑、常に争鬪をなす、極めて無智、褻味の民なり、同類中酋長なるものあり。

未開 縫紉人、ソラビヤ人の如き此種の民にして水草を逐ふて移轉し、帳幕或は粗造の家屋に住居す、家畜を飼養し、漁獵をなし、農業を務め、或は交易を事とするものあれども器械に乏しく、文字を解するもの少し、概族長政治に服す。

半開 此種の人民は農工商業頗開け、技藝文字を習ひ、禮義を重ざる風習あり、一般に古を尊びて進歩せず、支那・ペルシア・トルコ人等之なり。

文明 此種の人民は徳義禮讓を尙び、學術技藝を修め、農工商業完備し、貿易盛大にして交通自由を極め、多くは立憲政治を行ふ、日本・イギリス・ドイツ・フランス人等是なり。

●風俗 世界諸國の人類は國土氣候等の影響に因り、或は宗教の關係より、或は生存競争の結果等により、一種の風俗を生ず、既に風俗を生ずれば、人為の力容易に之を打破すべからずして、國家の發達之が爲に増進し、或は之が爲に阻害せらるゝことあり、凡そ風俗は社會の状態によりて高下の差異あれども、勤勉・節儉・質樸・高尚なるときは、國の品位を高

め富強を増進すれども、奢侈、遊惰、野卑なるときは其國をして貧弱ならしむ、家屋、飲食、品物、衣服、遊藝、詩歌等は風俗の主なる事項なり。

宗教

世界に於ける宗教の種類は甚だ多くして枚舉に遑あらずれども、現今多數の信徒を有するものは、婆羅門教、佛教、猶太教、基督教、回教にして、拜火教、道教、神道等多少の信徒あり。

●婆羅門教 Brahmanism は古來印度に盛に行はれたる宗教なり

紀元前二千年の頃、アリア種族、パンジャブに侵入し、幾多の部落をなし、太陽を神とし、祭るに、毎戸、聖火を點し、頌歌を唱ひたり、其歌を編纂したるものを、韋陀と云ふ、是即ち韋陀教と稱するものにして、世界最古の宗教なり、其後幾多の改良變遷を経て、婆羅門教となれり。

佛教徒は之を外道と稱す、其分派甚多し

而して佛教の起りし爲め、一旦衰微せしが、其後勢力を改復し、今猶印度に行はる、信徒の數二億五千萬餘あり。

●佛教 Buddhism は釋迦の創建せしところにして、其原は婆羅門教より出て、慈悲を以て立教の本となす。

釋迦は神武天皇のころ印度のカピルバヌツに生れ、三十五歳にして佛道を唱へ、四十五年間說法をなせり。

此宗教は現今日本、インド、錫蘭、シヤム、支那、ペリヤ、朝鮮等に盛に行はる、信徒の數三億七千萬あり、天台、華嚴、法相、真言、禪、淨土等數多の宗派あり。

●儒教 Confucianism は宗教と稍趣を異にすれども、感化力の及ぶ所甚大なり、其原甚だ古くして、唐虞の昔に起り、夏、殷、周、三代を經過する間に、數聖人を経て、漸次に成立し、周公より孔子に至

(一) 綏靖天皇
の時魯
の山
東省
曲阜
縣に
生る

つて最も發達したるものなり、孔子、大に儒教を唱道し仁義を以て教の本とし、修身齊家に始まり治國平天下に終る、現今支那、日本、朝鮮に行はる。

●猶太教 は今より四千年前アブラハムの唱ひたるに始まり、其後モーセ天帝より十戒を授けられて此教を構成したるものにして、現今に至るまで猶太人に信仰せられ、往昔ローマの爲に人民は諸國に移されしより今は諸國に擴り、其數八百萬と稱す。

◎基督教 は耶穌基督が猶太教の缺點を補ひて之を唱へたるに起原せり、而して立教の本は獨一神の救済及愛の大道を説くにあり、耶穌は西曆紀元前四年猶太國に生る、三十歳のとき布教に従事したりしが、猶太教の祭司等より叛逆

(一) 征服を以て布教の手段となす

の告駭を受け十字架に磔殺せられたり、基督教には種々の分派あれども、之を區別すればローマ教、ギリヤ教、新教の三派とし、信徒凡四億二千萬あり。

●回教 はマホメット教とも稱しマホメットの創建にかゝる、基督教の説を參照してアラビア人に通ずる法を建てたり、而して其經典はコーランと稱し信仰と實行の二部となす、マホメットはアラビアのメッカに生る、實に我欽明天皇の朝に當れり、四十歳のとき宗教改良に志し、苦行の後此教を唱道せり、メシナに歿す、トルコ、アラビア、ペルシヤ、アフリカに盛に行はれ、信徒の數凡二億あり。

問 主なる宗教の起原地を舉げよ

教育

教育は智徳體を發達せしめ善良なる國民を養成するにありて其普及せると否とは文明と野蠻との岐るゝ所となり、從て一國の繁榮と富強とに至る大の關係を有するものなり、彼の軍事に於ても實業に於ても教育を受けたる者と否らざるものとの間に存する差違の甚だ大なることは事實に徴して最も明白なる所なり、今や宇内列國争ふて教育の進歩を計り、敢て後るゝを是れ恐るゝ所以は、國威の宣揚、國富の發達、殆んど懸て教育の隆昌如何に關するを以てなり、教育の施設には初等高等實業等ありと雖も其最國運の消長に關するものは小學校教育なり、故に列國中就學に關しては

ドイツ・フランスの如く全く干涉主義を取れる國多けれど、アメリカ合衆國の如く自由に放任するも人民一般に教育の必要を知り子弟をして就學せしむるものあり、今列國人口百に對する就學兒童の割合、及人口一に對する公學費額を擧ぐれば左の如し。

| 國名 | 就學兒童數 | 人口百に對する 兒童割合 | 普通教育費 | 人口一に對する 公學費 |
|---------|-------|-----------------|--------|----------------|
| アメリカ合衆國 | 一四、二五 | 三三・七 | 三七四、六四 | 五・九八 |
| イギリス國 | 六、七九 | 一七・〇 | 一〇二、五八 | 二・五七 |
| フランス國 | 六、二六 | 一六・〇 | 七八、三八 | 二・〇三 |
| スウェーデン | 四・七 | 一五・六 | 一五、七五 | 五・二三 |
| ノルウェー | 三・一 | 一五・五 | 四、四二 | 二・三〇 |
| ドイツ | 七、九三 | 一五・二 | 一一五、八七 | 二・二一 |
| スウェーデン | 七・三 | 一四・六 | 八、六九 | 一・七三 |

| | | | | |
|--------|------|------|-------|------|
| オーストリア | 三、四三 | 一四・五 | | |
| オランダ | 七一 | 一四・〇 | | |
| 日本 | 三、八八 | 八・九 | 一三、五〇 | 〇・二九 |
| 伊太利 | 二、五九 | 八・六 | 二四、四五 | 〇・七八 |
| ロシア | 三、七八 | 二・九 | 一一、八五 | 〇・〇九 |

右表、就學兒童中に於て、我日本は最下に位し、僅にイタリヤ、ロシアに超へ、教育費に於ても、亦只ロシアの上位にあるのみ。是れ國富の如何に、關係すること多しと雖も、我國民たるもの、大に教育の振興に力を盡さずんばあるべからず。

政治

●國家の起原 人智の開くるに従ひ分業を生じ、交誼を

結び、遂に利害を全くするに至り、互に團結して、個人の方に成し能はざる事を遠せんとの欲望を起すのみならず、他團體に對し、生存競争を起し、遂に首領を戴き、法令を定め軍隊を組織し、各人の生命財産の安全を計るに至る。斯くの如くにして國家成立す。

●國家及政治 國家とは、主權者、人民及領土の三者が、有機的組織を成せる集合體なり。主權者は國家の本にして、是れなければ、國家の生存、社會の秩序を保つこと能はず。其權力は最も強きものにして、如何なるものも是に勝つこと能はざるなり。政治とは、主權者が國家を統治することを云ふ。

●國體及政體 國體とは主權者の所在によりて、定まれる國家の状態を云ふ。君主の主權を握れる國家は君主國體

(一)帝國と主國とあり

(一)共和國體と稱す

にして國民主權を有するときは民主國體なり、政體とは主權者の統治權を行ふ方法によりて定まれる政治の状態を云ふ、立法行政司法の三權分立せずして一人の手に獨裁せらるるものを專制政體と稱し、之に反し、以上三權の分立するものを立憲政體と云ひ、立憲君主政體及立憲民主政體あり、而して人文の發達するに従ひ人民大に權利を尊重し、自治を希望するに至り、專制政體漸次廢滅して立憲政體に變するの傾あり、其改革の際、各國大抵騷亂を起せりと雖も、我大日本帝國の如く、上下歡喜の裏に憲法を欽定せられたる國家は萬國中未だ見ざる所なり。

生業

(二)憲法を以て三權の範圍を規定するを以て此名あり、(三)その如き未だ此改革を経ざるを以て今後多少の騷亂を免れざるべし、(四)列國中君主政體、民主政體、立憲政體の例を舉げよ

生業は主として衣食住に必要な物品を生産する業にして、其材料は天然に産する動植礦物に仰がざるべからず、未開の時代に於ては、生活の度甚低きが故に、天産物に就きて自在に生活の料を得たりと雖も、開明に赴くに從ひ、需用の程度を増進すると共に、生存競争益烈しきを以て、天産物を得ること以前の如く容易ならざるに至る。是に於て、分業の必要を生じ、所謂生業起る、而して世運の進歩に従ひて、學理を應用し、生産の途大に開け、其種類は愈複雑を極むるに至る。抑、生業の發達せると否とは、國家の盛衰に至大の影響を及ぼすものなれば、現今列國競ふて生業の發達に力を注がざるはなし、而して其發達は、國土の位置、地味氣候、天産物等によりて、左右せらるるものなりと雖も、之を利用する

| | | | | | | |
|---------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| イギリス | 三〇七 | 七八一 | 二五二 | 三六五 | 一一二 | 三九六 |
| 日本 | 三五三 | 四八七 | 一六九 | — | 三三五 | 六三一 |
| ロマーニア | 一三九四 | 三七三 | 二八八 | 一九五 | 一五二 | 二七四 |
| ベルギー | 二九二 | 二二四 | 七三三 | 四四一 | 一五二 | 五三 |
| ノルウェー | 三〇六九 | 一一二 | 三六六 | — | 七八六 | 二二二 |
| オランダ | 三三二 | 九三 | 二八四 | 一二七 | 三六四 | 二五 |
| デンマーク | 三七五 | 二四二 | 六四一 | 三六 | 〇九 | 二七 |
| アメリカ合衆国 | — | — | — | — | — | — |

右表に依りて見れば、耕地の最も多きは、ロシア、アメリカ合衆国、フランス、ドイツ等にして、我邦は第十位にありて、ロシアの二十分の一、合衆国の十四分の一に過ぎず。又百分比例に於ては、ベルギー、デンマーク、フランス、イタリア等最も多く、面積の過半は皆耕地なり。我邦は第十三位にして、只アメリカ合衆国、ノルウェーの上において、猶耕作の餘地を存すと

云ふべし、又森林は甚多けれども、牧場の擧ぐべきものなく、イギリスの耕地多からざるも、牧場の甚廣きと、同日の曠にあらざるべし。

ロシア、アメリカ合衆国を始め、南アジア、南アメリカ、オーストラリアの一部等は、食料品等の農産を輸出すること多く、世界の農業國なり、其供給を受くる國は、イギリス、ドイツ、フランス、ベルギー、ノルウェー等なり。今や世界各国、人口益増加し、食料の供給漸次缺乏し、米、麥、肉類等は益騰貴するを以て、歐洲諸國が銳意未開の地を領有せんとするは、益し豊富なる食料の供給を得んとするにあるや明なり。我邦人たるもの益、荒地を開拓し、以て食物の獨立を維持せざるべからず。

● 牧畜業 家畜(羊、馬、牛、豚、略、駝等) 家禽(鶏、家鴨等)を飼養して

| 國名 | 羊頭數 | 羊毛產額 |
|----------|------|------|
| オーストラリア | 九九九一 | 六六六三 |
| ニュージーランド | 七四三八 | 四六二五 |
| ロシヤ | 四四四七 | 四五二三 |
| アメリカ合衆國 | 三八六五 | 三三三八 |
| イギリス | 三二〇二 | 一七三四 |
| フランス | 二二二七 | 一三三五 |
| イスパニヤ | 一六四七 | 一二八八 |
| 南アフリカ | 一二六二 | 一三二三 |

衣食工業等の料を産出する業にして、其必要なること農業に譲らず、就中羊の牧養は、此業中最主要なるものにして、羊毛の需用は、益増加するの勢あり、今各國牧羊頭數、及羊毛產出の比較を擧ぐれば上の如し。

四百六十
五萬噸

●製糖業 砂糖消費の多少は、其國文明の程度を推知し得べしとは、識者の唱道する所なり、蓋し文明の進歩、生活程度の上進と共に、砂糖の需用増加するを以てなり、砂糖は種々の原料より製し得べしと雖も、現今最廣く行はるゝは甜菜

二百八十
五萬噸
甜菜はナポ
レオン一世
の始めて栽
培せしもの
なり

糖(六割二分)にして、之に次ぐは甘蔗(三割四分)なり、甘蔗糖は熱帯地方の産にして、其最も多きはマウイ群島、西インド、ブラジル、ハワイ等の諸國なり、甜菜糖は温帯地方に産す、ヨーロッパ諸國にては、盛に之を製出し、ドイツ、フランスの如きは、其保護獎勵至らざるなく、今や製糖業は、漸次熱帯地方より温帯地方に移れりと云ふべし、今主要なる製糖地及消費地を擧ぐれば左の如し。

| 國名 | 産額 | 原料 | 國名 | 一人平均消費 |
|--------|-----|----|---------|--------|
| ドイツ | 一七八 | 甜菜 | イギリス | 八八 |
| オーストリア | 一一二 | 全 | カナダ | 八〇 |
| フランス | 九六 | 全 | アメリカ合衆國 | 六三 |
| ロシア | 八九 | 全 | ドイツ | 三二 |
| 南アフリカ | 七二 | 甘蔗 | フランス | 二八 |

| | | | |
|------------------|----------|--------|----|
| キ ウ バ | 四〇全 | ベルギー | 二七 |
| ペ ル ギ ー | 二九甜 菜 | アンマールク | 二〇 |
| ハ ッ イ | 二八甘 蔗 | オーストリア | 一七 |
| プ ラ ッ ル | 一八全 | ロシア | 一五 |
| オ ラ ン ヂ | 一七甜 菜 | 日本 | 九 |

七四

●蠶糸業 蠶糸は、今や奢侈品より、日用品に轉化しつつありて、需用日に増加す。其產出國は主に支那、日本、イタリアにして、其需用地の主なるものは、フランス及アメリカ合衆國なり、其産額左の如し。

| | |
|------------|------|
| 二百〇五万五千九百貫 | 支那 |
| 九十一万五千八百貫 | 日本 |
| 八十九万七千七百貫 | イタリア |
| 二十一万二千五百貫 | トルコ |
| 十四万九千五百貫 | フランス |
| 九万三千五百貫 | インド |

林業

林業は有用なる樹木を栽培して、木材、燃料(主産)及葯類、果實等の食料、樟腦、醋酸等の藥品、種々の染料、香料(副産)を得る等、直接の利益を興ふること甚大なれども、其効果は寧ろ間接の利益なる、水源を涵養し、土砂を防止し、洪水の氾濫を防ぎ、氣候を調和し、空氣を清淨ならしめ、風致を添ゆる等にあり。是れ文明諸國が、競ふて此業を發達せしめんことを勉め、濫伐を嚴禁する所以なり。然れども、此業は進歩甚遅く、各國今猶幼稚の境を脱せず、多くは天然に従ひ、只樹木の存在するのみ、學理に従ひ、進歩せる林業の行はれざるは、尙我日本と大差なく、只ドイツ、フランス等稍、見るべきものあるのみ。今

各國森林の面積及輸出額を擧ぐれば左の如し。

| 國名 | 面積 | 國名 | 輸出額 |
|---------|-------|---------|------|
| カナダ | 三一九三〇 | ロシア | 九四七五 |
| アメリカ合衆國 | 二〇〇〇〇 | スウェーデン | 五九四三 |
| ロシア | 一九九三〇 | オーストリア | 五五九三 |
| イギリス | 二五六〇 | アメリカ合衆國 | 四二五〇 |
| 日本 | 二二五〇 | カナダ | 三八六四 |
| スウェーデン | 二二〇二 | ノルウェー | 一三六四 |
| オーストリア | 一八五四 | ドイツ | 七二〇 |
| ハンガリア | 一三八〇 | フランス | 六九一 |
| ドイツ | 八三〇六 | スウェーデン | 一八三 |
| フランス | 六七四 | 日本 | 二四 |

右表に就て見るに、森林面積の最大なるは、カナダにして、合

衆國・ロシア・インド之に次ぎ、我邦亦第五位にあり、世界中森林多き國の一なり。然れども只面積の多きのみにして、生産甚少く、ドイツ・フランスの如く、其面積我に及ばざる國よりも、輸出遙かに劣れり、故に一朝大雨に遇へば、忽堤防潰決し、河水氾濫の慘狀を呈し、道路鐵道を破壊して、交通阻絶し、復舊工事治水費等に、多大の經費を要するのみならず、少しく旱魃の時には、水田龜裂し、米穀産せざるの患あり、されば我邦人たるもの、大に林業の發達を勉めざるべからず。

鑛業

鑛業は地中に埋藏する鑛物を、採掘する業にして、其種類極めて多けれども、金・銀・銅・鐵・石炭・石油等を主要なるものとす。

就中、鐵石炭は、實業上、軍事上、缺くべからざるものにして、國家の富強に、至大の關係を有するものなり。其產出及び消費の多きは、アメリカ合衆國を第一とし、イギリス・ドイツ・フランス等之に次ぐ。其工業界に雄飛する實に故なきにあらずるなり。我邦は石炭の産額稍多しと雖ども、鐵は甚僅少にして、需用の五分の一にも足らず。然れども、銅の産額は甚だ多く、世界第三位を占む。石油は合衆國・ロシアを最とし、全産額の八分の七を占む。我邦も亦近來多量に産出すれども、猶需用の三分の一を充すに過ぎず。此他、金銀(合衆國・メキシコ)水銀(イスパニア)錫(マツイ群島)鉛(ドイツ)亞鉛(ドイツ)アンチモン(フランス)硫黃(イタリア)日本)岩鹽(ドイツ)オーストリア)金剛石(南アフリカ)ナツシル(等各地に産出せり。

(一) 五千七百七十石
(二) 五千四百七十石
(三) 五千三百七十石
(四) 五千二百七十石

鐵石炭の產出及消費額

| 國名 | 鐵 | | 石 | |
|---------|------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|
| | 產出 | 消費 | 產出 | 消費 |
| アメリカ合衆國 | 二二〇〇 <small>萬噸</small> | 九五〇 <small>萬噸</small> | 二四〇〇 <small>萬噸</small> | 一九〇〇 <small>萬噸</small> |
| イギリス | 二三四一 | 五〇〇 | 二〇五〇 | 一五〇〇 |
| ドイツ | 二二一〇 | 五九〇 | 二二〇〇 | 八八〇 |
| フランス | 三九七 | 二二〇 | 三〇〇 | 四〇〇 |
| ロシア | 三三〇 | 一一〇 | 九七五 | 一五〇 |
| オーストリア | 一八〇 | 三〇 | 三五〇 | 一七〇 |
| ハンガリー | 一五〇 | 四三 | 二二〇 | 一八〇 |
| ベルギー | 八〇 | 四三 | | |
| スウェーデン | 三七 | 四五 | | |
| イスパニア | 三 | 一二 | 五二四 | 四三五 |
| 日本 | | | | |

| 金産額(最近十年間の合計) | | 銅産額 | |
|---------------|--------|---------|-------|
| アメリカ合衆國 | 一〇五四九一 | アメリカ合衆國 | 二四三二〇 |
| オーストラリア | 一〇二三八八 | イヌバニア | 五四一〇〇 |
| ロシア | 四九〇五一 | 日本 | 二五六〇〇 |
| 清 | 二三〇二七 | チベット | 二五三〇〇 |
| イギリス | 一一六六〇 | ドイツ | 二〇一〇〇 |
| フランス | 八二六一 | オーストラリア | 一八三〇〇 |
| ドイツ | 三八二九 | メキシコ | 一五九〇〇 |
| オーストリア | 三五三四 | カナダ | 八二〇〇 |
| 韓国 | 一九二二 | ロシア | 六一〇〇 |
| カナダ | 一五五三 | ノルウェー | 三七〇〇 |
| 日本 | 一四五八 | イタリヤ | 三五〇〇 |
| メキシコ | 一一四〇 | | |

水産業

海水と河水との別なく、凡て水界に屬する動植等各種の産物を捕獲採集し、之に適當の製作を加へて、食料品を初めとし、其他の需用に供するを水産業と云ふ、而して水界は陸界に比して、面積宏遠に、氣候も兩極の氷海より炎熱なる河海に亘りて、水産の分布も亦一樣ならず、就中魚類は、其主要なるものにして、本業の大部を占め、多量の食料品及魚油を吾人に供給す、其漁獲の主なる者は、鱈、鯖、鮭、鱒、魚、鰯、鮪、鰈、鳥賊等なり、鱈は、ニールランドの東南部及ノルウェーの西岸は好漁場にして、其肝油は有名なり、次は鱈にして、漁場亦北海を最とし、我北海道沿岸及ベーリング海に多く漁獲せらる

此地地方より我々に送る年々二百萬斤餘を送る

| 國名 | 收穫高 |
|---------|------|
| アメリカ合衆國 | 九二九八 |
| イギリス | 七九三六 |
| 日本 | 六一七六 |
| カナダ | 四一九九 |
| フランス | 三六八七 |
| イスパニヤ | 一五一五 |
| ノルウェー | 一一〇六 |
| イタリア | 五九三 |
| オランダ | 四六三 |
| ドイツ | 三四七 |

蠨蝦其他の甲殻類はイギリス・オランダ・フランス等に飼養盛に、食用に供せらる。海獣は各地に産すれども、アワスカン

鮭は北亞米利加の太平洋岸及ツレザ河口附近に多く捕獲せられ、其銷路は年々二萬六千噸以上を他地方に輸出す。鱒魚は黒海及カスピ海に産し、其魚卵は乾製品又は鹽漬として輸出せられ、魚膠と共に貴重品たり。又地中海に於ける鱈、イギリス近海に於ける鯖鱈等は、食川品として特に貴重せらる。其他牡

レット諸島我千島諸島沿海に海豹臘朧等を産し、シベリア沿岸には水獺の獵あり。海藻亦各地に産し、日本の如きも年々輸出すること百萬圓以上に達せり。製鹽は水産の一部にして海水より採れども岩鹽より製するものより少なし、且炎熱乾燥地方に限らる。其産出の多きはアメリカ合衆國支那日本・ロシア・フランス等にして、インドの如きは製鹽の産額を需要を充たすに足らず、魚類の收穫高前表の如し。

工業

以上各種の生業に依りて得たる物品に、更に人工を加へて、種々の需要に供するもの、之を工業と云ふ。而して工業は生業中にて、最も國力を増進するものなり、是工業は廉價の原

料を採りて、之に努力を加へ、高價の製作品となすものなるが故なり、而して努力なるものは、殆ど無限にして絶えず之に供給し得らるべし、されば國利を増殖する點に於て、工藝品が農産物及鑛産物の如き、原料品に優る所以にして、從て工業の國家に必要なる所以なり、現今イギリスの宇内に其富強を稱せらるるもの一に工業を盛にし列國に先んじて其製品を供給したるに由るなり、ドイツの近來勃興したるも、亦工業發達の力多きに居る、又アメリカ合衆國の大富源も、其製造業の盛なること世界に冠たるを以て推知し得べし、實にイギリスの製銃紡績織布造船業に於ける、ドイツの毛織物、諸器械製造及フランス、イタリアの美術工藝品に於ける、其他ベルギー、スウエーデンの盛に、工業を獎勵せる實に至れ

問、下表に
よれば、我が國に
は、最下位に
あり、人口に
おける、比較
的人の割合は、
つきよ、比較
見よ

り盡せりと云ふべし、其現況左表の如し。

| 國名 | 機械品類 | 器具類 | 其他 | 合計 |
|--------|------|-----|------|------|
| 合衆國 | 一八八 | 二二九 | 一五六三 | 一九八〇 |
| イギリス | 一九二 | 一四二 | 五四三 | 九七六 |
| ドイツ | 一〇八 | 一〇五 | 四七七 | 六九〇 |
| フランス | 一一五 | 四七 | 四三四 | 五九六 |
| プロシヤ | 八一 | 一五 | 二八四 | 三八〇 |
| オーストリア | 五六 | 一九 | 二五三 | 三三八 |
| イタリア | 三三 | 四 | 一五四 | 一九〇 |
| イスパニア | 一九 | 五 | 九七 | 一二二 |
| ベルギー | 一七 | 一九 | 八二 | 一一八 |
| スウェーデン | 九 | 八 | 六四 | 八一 |
| 日本 | 四二 | 一 | 一八 | 六二 |

商業

商業は國家經濟上に至大の影響を與ふるものにして、其盛衰は國の興廢に關せり、商業を分ちて内地商業、外國貿易の二とす、殊に外國貿易は内地商業に比して、國利民福を増進せしむる上に於て、偉大の關係を有するものなり、而して其盛衰は主として、物産の多少、交通の便否、營業者の嗜好とは、其盛衰に原因し、又其販路の廣狹と、需要者の嗜好とは、其盛衰にかゝるを以て、之れが設備を謀り、研究を積み、貨物の増加及改良に留意し、以て其隆盛を謀らざるべからず。

現今歐米諸國の外國貿易は、非常に長足の進歩をなし、世人の耳目を聳動せり、經濟學者は之が原因を討究して、蒸氣、電氣、發明、理財及平和にありとなす、此五者は、或は勞力を節減し、價格を低廉ならしめ、或は貨物の販路を擴張し、商業を敏活ならしむるに於て、偉功を奏し、直接商業に影響を及ぼしたり、要するに商業は、各種の生業の改善發達と之が貿易に歸因するものなれば、各國競ふて、或は交通機關の完備を謀り、或は種々の政策を施し、或は領事を諸國に駐在せしめ、或は商業視察員を各地へ派遣し、或は博覽會を設け、或は商品陳列館を置き、其他諸般の施設に汲々として、日も亦足らざる勢なり、今最新の統計を見るに、世界貿易の總額四百億に垂んとし、人口一に對する平均額二十六圓五十錢餘に達せり、今之を主要の商業國につきて見るに、實に次表の如し。

問、各國の貿易額を對人口數に對し、比較し見よ

| 國名 | 輸出 | 輸入 | 合計 |
|--------|------|------|------|
| イギリス | 二五八二 | 四七三四 | 七三一六 |
| ドイツ | 二〇一九 | 二六三二 | 四六五一 |
| 合衆國 | 二四〇八 | 二三七二 | 三七七九 |
| フランス | 一五七八 | 一七二七 | 三三九七 |
| オランダ | 一一九〇 | 一三六五 | 二五五五 |
| ロシア | 六五八 | 六八三 | 一三四一 |
| イタリア | 五四四 | 五七三 | 一一二七 |
| オーストリア | 七五四 | 六六二 | 一四一六 |
| 日本 | 二五二 | 二五六 | 五〇八 |
| スペイン | 三〇三 | 四四二 | 七四五 |
| ベルギー | 七七九 | 六六〇 | 一四三九 |
| イスパニア | 二八九 | 三四四 | 六三三 |

されば世界中第一位を占むるは、イギリスにして、ドイツ合衆國之に次ぐ、我國の如きは、年々増進して世人を驚嘆せしむるに足るものありと雖も、未だ世界の商業國に比すれば遙に下位にあり、左表は我國が昨年輸出輸入したる主なる産業國との有様を示すものなり、我國民たるもの世界貿易の趨勢を熟和し、益、我國貿易の増進を計らざるべからず。

| 國名 | 本邦より輸出額(主ナル品) | 本邦に輸入額(主ナル品) | 合計 |
|------|--|--|--------|
| 合衆國 | 五二、五六 <small>羽二重、絹手巾、織物、中綿、茶、生糸、生糸、茶、生糸</small> | 六二、七六 <small>織物、石油、砂糖、生糸、茶、生糸</small> | 一一五、三二 |
| イギリス | 一一、二六 <small>羽二重、絹手巾、織物、中綿、茶、生糸</small> | 七一、六四 <small>織物、石油、砂糖、生糸、茶、生糸</small> | 八二、九〇 |
| 支那 | 三一、八七 <small>茶、生糸、生糸、茶、生糸</small> | 二九、九六 <small>織物、石油、砂糖、生糸、茶、生糸</small> | 六一、四三 |
| 香港 | 三九、一八 <small>茶、生糸、生糸、茶、生糸</small> | 三九、一八 <small>織物、石油、砂糖、生糸、茶、生糸</small> | 四九、八四 |
| ドイツ | 三、五六 <small>織物、石油、砂糖、生糸、茶、生糸</small> | 二九、二〇 <small>織物、石油、砂糖、生糸、茶、生糸</small> | 三二、七五 |

| | | | |
|--------------------------------------|--|--|---------|
| イ ン ド | 八、七〇 <small>石炭、羽二重、ワッ チ、樟腦、熟桐、絹 子</small> | 二、三、五二 <small>機絲、乾薑、米、苧 麻、羊毛</small> | 三三二、二二二 |
| フ ラ ン ス | 一九、一五 <small>生糸、羽二重、麻糸 米、樟腦、絹子、 ワッチ、サナダ</small> | 八、一〇 <small>麻、桑、羊毛、 絹子、絹</small> | 二七、二五 |
| 朝 鮮 | 九、九五 <small>生糸、白木綿、生 糸、金巾、生絲、サ ナダ</small> | 八、八〇 <small>米、大豆、油、生 糸</small> | 一八、七六 |
| ア ロ シ ア 領 | 三、五四 <small>米、石炭、 陶磁器</small> | 五、七二 <small>石油、蠶糸、 油</small> | 九、二六 |
| ペ ル ギ ー | 二九 <small>米、熟桐、魚油、石 炭、羽二重</small> | 七、九四 <small>生糸、熟桐、乾薑、羊 毛、絹子、ワッチ</small> | 八、二四 |
| イ タ リ ア | 七、二二 <small>生糸、麻糸、絹子、 ワッチ、陶磁器、羽二 重</small> | 四五 <small>絹子</small> | 七、五八 |
| オ ク ラ ン ゲ 領 | 三六 <small>石炭 陶磁器</small> | 四、六九 <small>生糸、石油、乾薑、 絹子、絹</small> | 五、〇六 |
| オ ー ス タ リ ア | 二、五三 <small>米、麻糸、絹子、 ワッチ、陶磁 器、地産</small> | 二、四五 <small>羊毛、麻、 粉</small> | 四、九八 |
| フ ィ リ ッ ピ ン 諸 島 | 一、二五 <small>石炭、絹子、 マツ、洋糸、絹子</small> | 二、二八 <small>砂糖、麻</small> | 三、五四 |
| カ ナ ダ | 二、九五 <small>生糸、生糸、羽二重 米、絹子、地産</small> | 三二 <small>蠶糸、粉、蠶糸、 絹</small> | 三、二六 |
| ハ ワ イ | 一、二九 <small>米、陶磁器、絹子、 地産、生糸、麻糸、 ワッチ</small> | 一一 <small>砂糖</small> | 一、三〇 |
| 總 計 | 二〇四、四三 | 二八七、二六 | 四九一、六九 |

交通

昔時は、僅の坂路河海も交通を妨げしが、今や人智の發達は、
Communication
 高山深谷も之を開きて通路となし、暴風怒濤を排して航海
 し得るに至れり、實に交通の便否は、人文の開發商工業の進
 歩に至大の影響を及ぼすものなるを以て、世界各国競ふて
 之が建設改良を圖れり、交通の用に供する主なるものは陸
 路・水路・鐵道・郵便・電信・電話等なり。

●陸路 ROAD 陸路は人類の住む處凡て通ぜざるはなく、交通上
 須臾も缺く可らざるものなり、其峻易及遠近は大に利害あ
 るを以て、各國皆な險坂を開きて坦道となし、迂回路を直路
 に改め、其の他橋梁を架し、隧道を穿ち、大に道路を修築せり

就中大都府に於ては位置を按じて線を劃し地を相して道路を改造し人道車道等の區劃を定めて清潔にせり。

道路に三階級ありて大都府を連ぬるものを國道と稱し各地方より國道若くは都府港等に連絡するものを州道又は縣道と稱し又一小地方の通路を里道と稱す其他一人の用に供する私道あり。

●水路 河湖海洋等に於ける水上の通路にして河湖に於ては川路と稱し海洋に於ては海路と云ふ。

太古蒙昧の時代に於て舟楫の利を發見するや櫓船を用ひたり是より人智進みて風力を應用する帆船を造るに至り遠洋航海の企も之に由りて編結を開けり然るに風位によりて迂路を航海するの不便あり又波浪稍高き時は難破の憂等あるを以て水運業未だ發達せざりしが蒸汽力利用の發明に次ぎて之を汽船に應用するに至りしより以來各國爭ふて汽船を製造するに至れり而して今や航海術も大に開け昔日の如く一個の羅針盤と風力とに運命を托するに非ずして精密なる海圖(位置、距離、潮流、風向、水深、水深、水深)

(一) 西曆千七百八十二年
トット氏
(二) 同千八百一十年
トット氏

時辰儀羅針盤等と始め氣象の觀測器報告等完備し加ふるに船舶の構造愈改良せられ鋼鐵船となり三聯成機關の發明となり速力も増加し船體も巨大なるものを製造するに至りたれば激浪怒濤に堪ゆるに至り數百千里の航海も完全にして迅速に交通し得るに至れり今我國よりの世界重要の航路を示せば左の如し

歐洲線 橫濱—神戶—門司—長崎—香港—新嘉坡—ペナン—古倫母—孟買—アア—
—ボード—サイド—マルセーユ—倫敦—アムステルム。

亞洲線 橫濱—神戶—門司—長崎—香港—マニラ—木曜島—タウンスビル—
—ブリスベン—シドニー—メルボルン—アメライド。

米國線 橫濱—バンクバーン—ヤートル
橫濱—ホノルル—サンフランシスコ

香港—汕頭—廈門—福州—上海—芝罘—長崎—釜山—元山—
—ウラウホストク。

此他ホンスーサンワバル間、シガポール—ナタル間、サンフランシスコ—
メリカ諸港間、ロンドンより世界各港に至る航路數多あり。

抑水運業は、昔時人夫・牛馬等を使役して僅かに交通運輸の便を保ちし時に於ても、川路が水運の利を與へて内地の交通運輸を便にせり、陸地に鐵道の便開くるに至りても、大陸間は船舶の便に由るものにして、其發達せると否とは、交通運輸の盛衰となり、貿易上軍事上其他大なる關係を及ぼし、從て一國の利害に關するものなれば、世界の諸國之が發達進歩に力を盡さざるはなし、之が爲めに地峽を開鑿して運河を通し、船渠を設けて船舶を築造・修繕し、築港行はれ、港灣には燈臺・燈竿・燈船・浮標・霧鐘・霧笛等を設備し、或は海運業者に保護を與ふる等、列國の水運業特に海運業に汲々たる驚くべきものなり、今列國の船數及噸數を示せば左表の如し

| 國名 | 汽船 | | 帆船 | | 合計 | |
|--------|-------|-------|-------|------|--------|-------|
| | 隻數 | 噸數 | 隻數 | 噸數 | 隻數 | 噸數 |
| イギリス | 七、九三〇 | 一、三二五 | 二、九〇八 | 二、二二 | 一〇、八三八 | 一、四二六 |
| 合衆國 | 九三三 | 一、四五五 | 二、二〇三 | 二二九 | 三、一三五 | 二七五 |
| ドイツ | 一、二〇九 | 二二六 | 五〇一 | 四九 | 一、七一〇 | 二六五 |
| ノルウェー | 八〇六 | 七六 | 一、五七四 | 八七 | 二、三八〇 | 一六四 |
| フランス | 六六三 | 一〇五 | 五五三 | 三〇 | 二、二二四 | 一三五 |
| イタリア | 三三二 | 五四 | 八六四 | 四四 | 一、二七六 | 九八 |
| ロシア | 四九六 | 四七 | 七五〇 | 二五 | 一、二四六 | 七二 |
| スペイン | 四三三 | 六四 | 一、七五 | 五 | 五九七 | 六九 |
| スウェーデン | 六七八 | 五〇 | 七五五 | 二 | 一、四三三 | 六四 |
| 日本 | 四八四 | 四九 | 五二八 | 九 | 一、〇六六 | 五七 |
| オランダ | 二八九 | 四七 | 一、二七 | 六 | 四〇六 | 五三 |
| デンマーク | 三六九 | 四一 | 四三三 | 一一 | 八〇二 | 五二 |
| オーストリア | 二二四 | 三九 | 五六 | 三 | 二七〇 | 四二 |
| ハンガリー | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--------|------|----|------|------|--------|---------|-----|--------|------|------|-----|
| スウェーデン | ベルギー | 日本 | メキシコ | イタリヤ | アルヘンチナ | オーストラリア | カナダ | オーストリア | イギリス | フランス | ロシア |
| 二 | 三 | 四 | 八 | 〇 | 〇 | 一五 | 一七 | 二二 | 三三 | 三四 | 三〇 |
| 一四五 | 二五二 | 二六 | 一五 | 八六 | 七 | 四 | 四 | 八三 | 一七九 | 一一三 | 一一五 |
| 七 | 四〇 | 九 | 七〇 | 三〇 | 二五〇 | 二九〇 | 三三〇 | 五〇 | 五三〇 | 六一〇 | 一 |

鐵道延長の最も多きは、合衆國にして日本は第十三位に當

一、西暦千五百六十一年
二、西暦千五百七十四年
三、西暦千五百八十九年
四、西暦千六百一十一年
五、西暦千六百三十四年
六、西暦千六百七十四年
七、西暦千七百一十四年
八、西暦千七百五十四年
九、西暦千七百九十四年
十、西暦千八百一十四年
十一、西暦千八百五十四年
十二、西暦千八百九十四年
十三、西暦千九百一十四年
十四、西暦千九百五十四年
十五、西暦千九百九十四年

れり、又人口一萬に對する延長は、英國の五十三哩を最とし、カナダ、合衆國之に次ぎ、日本は僅かに〇哩九を有するのみ、鐵道事業の幼稚なること實に驚くべきものなり。

今世界の主なる線路を舉ぐれば、太西太平洋兩洋を連ぬるカナダ太平洋鐵道、太北鐵道、北太平洋鐵道、連合太平洋鐵道、南太平洋鐵道等あり、亞細亞には、シベリア鐵道、ロシア領中アロアに於ける鐵道、印度カルカッタよりマシヤブボンペーに連りマドラスに至るもの、ケーララウンよりカイロに通せんとする縱貫鐵道等を大なるものとす。

●郵便 郵便は信書、印刷物及貨物等を運搬する爲めに設けられたる重要なる交通機關にして、其制度は各國一様ならざれども、大抵官業となし、政府其事務を管理す。

郵便事業はローマ時代に於て萌芽せしが、十九世紀の始め英國郵便條例を制定せしより、漸次完備し、次で萬國郵便聯

合を創立し、郵便事業の一大革進をなせり、我國も明治十年を以て此聯合に加はり、他の同盟諸國と同一の便利を享有するに至れり、今最近同盟國の主なるものにつき郵便個數及び人口一人に平均すれば左の如し。

(一) 其數八十餘あり

| 國名 | 個數合計 | 人口一人に付郵便數 |
|---------|--------|-----------|
| アメリカ合衆國 | 一三、八一三 | 一六八 |
| イギリス | 三、五八八 | 八七 |
| ドイツ | 四、七七〇 | 八四 |
| フランス | 一七三 | 七一 |
| ベルギー | 四五四 | 六七 |
| オランダ | 二、四六二 | 六三 |
| スペイン | 二〇八 | 六二 |
| ポルトガル | 三〇八 | 六〇 |

上表に由るときは郵便個數の最も多きはアメリカ合衆國にしてドイツ・イギリス・フランス等之に次ぎ日本は十七位にあり然れども國に大少あり人口に多少あれば單に其數の多少を以て事業の發達を比較し難きを以て個數を人口

| | | |
|--------|-------|----|
| オーストリア | 一、二二四 | 四六 |
| スウェーデン | 二、三三九 | 四七 |
| ノルウェー | 一、一四 | 四六 |
| カナダ | 二、二二 | 四〇 |
| ハンガリー | 四、四〇 | 三五 |
| イタリア | 五、三七 | 一六 |
| イスペイン | 二、六四 | 一四 |
| ポルトガル | 六、五 | 二三 |
| 日本 | 六、三五 | 二三 |

| 國名 | 電信線路 | | 一ヶ年間の電報合計 | 人口百人に對する通數 |
|--------|------|----|-----------|------------|
| | 線 | 條 | | |
| 合衆國 | 七八 | 三七 | 六二 | 八〇 |
| フランス | 三七 | 八 | 一八 | 一四 |
| ドイツ | 三三 | 一六 | 四四 | 二四 |
| イギリス | 三一 | 二 | 四二 | 八一 |
| オーストリア | 一八 | 三 | 九〇 | 二三四 |
| ハンガリー | 一四 | 三 | 一四 | 五九 |
| イタリア | 一〇 | 三 | 二 | 三六 |
| 日本 | 七 | 二 | 一六 | 三四 |

上表によれば、電信線路の最も長きはアメリカ合衆國にして日本は各國中第八位にあり、又電報通數はイギリスを最とし、合衆國・フランス等之に次ぐ、日本は第六位にあり、又人

千八百七十六年ヒラデ架設す

口百人に對する通數は、英國第一位にして、日本は第七位に當れり實に我國の電信事業は幼稚なりと云ふべし。

●電話 交通機關中、電信よりも簡易敏活なるを以て重せらる、其合衆國に於て始めて用ひらるゝや各國又爭ふて架設し、我國にても明治十八年始めて其設備を成し、爾後東京、横濱其他に架設せられたり。

列國の領土、富力、兵力

凡國家を組織するには、土地と住民となかるべからず、其住民にして其土地を活用することなくんば、國土大なりと雖も、皆に無用の長物たるに終らん、富國強兵の要素は、國土に生存する人民の之を利用するにあり、而して國家の優劣を

測るべき尺度は、種々ありと雖も領土の廣狹、行政の虛盈、國民所得の多少、兵力の強弱を主要なるものとす。

●領土 國家富強の尺度としては、其領土の大小は直に之が標準となすに足らずと雖も、國土は國民が由て以て活動すべき唯一の舞臺なり、其廣狹は人口の多少を示し、延て國家強弱の岐るゝ所となること少からず、これ列國の汲々として其領土を擴張せんする所以なり。

領土の大を云へば直にイギリスを想起せざるを得ず、其所屬地は、本國に比し約百倍を有し、世界總面積の五分の一を占む、小島國なるイギリスとして斯の如き廣大なる領土を有するは以て其國民の堅忍不拔の氣象を有するを知るに足る、之に次ぎ近時益々擴張の方針を採れるものは、ロシア、ド

一千八百七十一年末

イツ、合衆國、フランス等にして、ロシアは漸次アジア地方に其領土を擴め、東半球の北方は東西を通じて其所領となし、世界の七分の一は實に露國の掩有する所なり、次にフランスはドイツと戦ひ、アルサス・ローレンを割讓せるも、其殖民地に於ける發達は、アジア、アフリカ、大洋洲等に於て少なからざる膨脹を見たり、ドイツは近年領土擴張に汲々とし、短日月の間に獲得せしこと實に大なり、先年までは本國のみにて、一の屬地なかりしが、フランスと一度戦を交へてより、ドイツ帝國を組織し、銳意殖産興業の發達を計り、進取的方針を以て海外に領土を擴張し、今や本國に十餘倍の領土を有するに至れり、合衆國も近時、ポルトリコ、ハワイ及ヒリッピン等の諸島を合併して、益々擴張の方針に向ひたり、其他

ルトガル・オランダ・イスパニアの如き往時は或はアフリカに或はアジアに、或は南アメリカに驚くべき廣大の土地を有したりしも、今や漸く減少し、殊にイスパニアの如きは昔日の觀なし、今列國の領土を比較すれば左の如し。

問一、本國と所屬地と面積を比較し見よ
問二、他國も此表に倣ひ表を作さるべし

| 國名 | 本國面積 | 所屬地面積 | 全領地面積 |
|-------|---------|---------|----------|
| イギリス | 二、〇三九九 | 一七三、九六〇 | 一七五、〇〇〇 |
| フランス | 三五、五〇八〇 | 七五、三九二〇 | 一一〇、九〇〇〇 |
| 合衆國 | 三、四七七九 | 七〇、二二二一 | 七三、六〇〇〇 |
| ドイツ | 五九、四五二〇 | 二五九〇 | 五九、七〇〇〇 |
| ポルトガル | 三、五〇五一 | 一一、七九四九 | 一六、三〇〇〇 |
| オランダ | 五七六二 | 一一、八二三八 | 一二、四〇〇〇 |
| イタリア | 二四一〇 | 一二、五五九〇 | 一二、八〇〇〇 |
| スペイン | 一、八四九六 | 三、四四〇四 | 五、二九〇〇 |

| 國名 | 本國面積 | 所屬地面積 | 全領地面積 |
|--------|--------|-------|--------|
| オーストリア | 四、〇六〇〇 | — | 四、〇六〇〇 |
| イタリア | 三、三五〇〇 | 四、一三五 | 三、七六三五 |
| 日本 | 二、七〇六二 | — | 二、七〇六二 |
| ベルギー | 一、九二八 | — | 一、九二八 |

●國民の所得 既に生業の各項に述べたる生産力の多少は其國の富力を表はすものと云ふを得べし最近の調査によれば世界に於ける富の總額は約六千三百億圓にして其所得は一千五十二億圓なるが其内大部を占むるものは合衆國にして世界國富の三割餘を占めイギリス・ドイツ・フランス之に次ぎ我國は下位にあり更に進んで人口平均額の所得上より順ればオースタリアを第一として合衆國・カナダ・イギリス・フランス等之に次ぎ我國又下位にあり今

最新の調査に係る各國民所得の統計は次の如し

| 國名 | 所得 | | | | 人口(一) | |
|--------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|
| | 農業 | 工業 | 商業 | 雑種 | | |
| 合衆國 | 6,337 | 10,501 | 6,539 | 7,748 | 31,017 | 44,331 |
| イギリス | 1,444 | 5,027 | 3,101 | 4,197 | 13,869 | 35,661 |
| ドイツ | 2,577 | 3,698 | 2,714 | 3,552 | 13,542 | 24,111 |
| フランス | 2,635 | 3,065 | 2,456 | 3,622 | 11,761 | 30,911 |
| イタリア | 3,572 | 1,921 | 2,059 | 2,197 | 9,799 | 9,311 |
| オーストリア | 2,050 | 1,698 | 1,454 | 1,698 | 6,900 | 16,011 |
| オランダ | 1,195 | 1,005 | 898 | 1,261 | 4,295 | 13,711 |
| ベルギー | 2,591 | 664 | 635 | 515 | 2,704 | 15,011 |
| イスパニア | 791 | 664 | 371 | 342 | 1,649 | 25,011 |
| ポルトガル | 549 | 259 | 371 | 371 | 1,552 | 3,711 |
| 日本 | 225 | 254 | 283 | 333 | 1,064 | 24,111 |
| ポルトガル | 156 | 156 | 107 | 175 | 595 | 1,911 |

世界の長さは日本(五億)を一分として他を算出

●財政 凡國を治むるには、行政司法兵備等の機關の設備を要するが故に之に對するの經費を要す此費途に充つべきものは其政府の保護の下に居る、人民之れが負擔に任せざるべからず是通常租税と稱し全國民に賦課し徵集するものなり其徵集したる金額をと云ひ、支出したる金額をと云ふ、若し内亂外寇等不時の災厄に際し、經常歲入を以て支辨し難きとき

| 各國 | 總債 |
|-----------------|----------|
| フランス | 百十八億圓 |
| イギリス | 六十五億五千万圓 |
| ロシア | 六十一億四千万圓 |
| ドイツ | 六十億七千万圓 |
| イタリア | 五十七億圓 |
| オーストリア ハンガリア | 五十四億一千万圓 |
| 合衆國 | 四十四億七千万圓 |
| イスパニア | 三十三億圓 |
| ポルトガル | 十五億五千万圓 |
| ベルギー | 九億八千万圓 |
| オランダ | 八億八千万圓 |
| 日本 | 五億圓 |

は、他より借り入れ之に充つるの外道なきなり、之を國債と云ふ、國家の歳入歳出に對し、剩餘あるは國富の充實を示し、之に反すれば國力の不振を招くことあれば、立憲國の國民たるものは、是等財政に鑑みて國家の經營をなさざるべからず。

| 國名 | 歳入總額 | 歳出總額 |
|--------|------|------|
| イギリス | 一八九 | 一八五 |
| フランス | 一四二 | 一四五 |
| ドイツ | 一三四 | 一二五 |
| オーストリア | 一二六 | 一二〇 |
| 合衆國 | 一〇二 | 一二七 |
| イタリア | 九三 | 九三 |
| ポルトガル | 六九 | 六九 |

一、戰時募集
二、徴兵令
三、兵隊の
四、徴兵の
五、意圖
六、隨
七、法
八、に
九、應
十、ず
十一、る
十二、もの
十三、と
十四、わ
十五、り
十六、兵
十七、隊
十八、の
十九、備
二十、後
二十一、現
二十二、役
二十三、の
二十四、別
二十五、備
二十六、あり
二十七、海
二十八、軍
二十九、に
三十、は
三十一、甲
三十二、艦
三十三、隊
三十四、水
三十五、雷
三十六、艇
三十七、の
三十八、水
三十九、雷
四十、艇
四十一、の
四十二、水
四十三、雷
四十四、艇
四十五、の
四十六、水
四十七、雷
四十八、艇

| | | |
|--------|----|----|
| イギリス | 三三 | 三四 |
| フランス | 二五 | 二五 |
| ドイツ | 一八 | 一九 |
| オーストリア | 一二 | 一二 |
| 合衆國 | 一一 | 一一 |
| イタリア | 一一 | 一一 |
| ポルトガル | 一一 | 一一 |

●國防 國家は兵備を整へ、内亂を鎮め、外寇を防ぎて、邦國の安寧を維持し、國威を宣揚し、以て自衛の道を講ぜざるべからず、是世界各國にて其國力に相應せる兵力を備ふる所以なり、而して近代の軍備は昔日の如く單純ならずして、完全なる兵制を施き、陸海軍を設け、之れが擴張に意を用ひ、富國強兵の實を擧ぐるを目的とするにあり、然り而して世界各國の軍備は、日を追ひ年を重ねて愈大となり、一國一兵を増

陸軍には歩
騎砲工輜重
兵等あり

せば、他國は一艦を加へ、互に武力の強大を務め、平和の間にありて、武備を嚴にし、一朝有事に際し、直に出師し得べき準備を整へり、今主要なる國々の兵備を見るに左の如し。

| 國名 | 陸軍 (平時人口) | 海軍 (噸數) |
|-----------------|-----------|---------|
| ロシア | 八十五万人 | 百七十万吨 |
| ドイツ | 五十五万人 | 六十八万吨 |
| フランス | 五十三万人 | 五十万吨 |
| オーストリア ハンガリア | 三十五万人 | 四十八万吨 |
| イギリス | 二十八万人 | 三十七万吨 |
| イギリス | 二十五万人 | 二十九万吨 |
| 合衆國 | 十八万人 | 二十五万吨 |
| 日本 | 十三万人 | 十三万吨 |
| オーストリア ハンガリア | | |

外交及世界に於ける日本の地位

外交とは國と國との間に修交條約通商條約等を締結して

互に交際することにして、恰も各個人間に於ける如く互に禮儀を以て相交るものとす。然れども、宇内列國各山川風土を異にし、人種風俗を別にし、人文の發達生業の状態、交通の便否、國力の強弱等亦各差異あるを以て、互に親交を結び平和を保ち有無相通し、以て各自國家の安寧幸福を圖ると雖も、動もすれば各國間に於て利害の異同を生じ相反目するのみならず、時に或は干戈を動し、弱の肉は強の食たるを免かれざることあり。然るときは各國間國力の平均を失ひ、隣國及關係國は其影響を蒙ること少からざるを以て、或は聯合して干涉又は仲裁を試み、或は機に乗じ騷亂を利用して自國の益を占めんとし、或は相結托して他國に於て利を分たんとする等事に臨み、變に應じ、列國各事宜に適する處置

を執り權謀術策を盡し外交實に錯雜を極むるに至る然れども列國各國是とする處ありて略外交の主義方針を定め又は攻守同盟を結びて自ら衛り戰爭を未發に防ぎ平和を維持せんことを圖れり而して宇内列國の舉動多くは此等同盟の爲めに制せらるるを以て其實狀に通ずれば自ら列國の關係を知り我邦と列國との關係及世界に於ける我の地位をも自ら了解し得るを以て今左に其主なるものを説示すべし。

●三國同盟 ドイツ・オーストリア・フランスの三國攻守同盟を結ひたるを云ふ、ドイツは千八百七十年明治三年フランスに勝ちたれども其最も恐るゝ處はフランスの復讐軍を起すこと、ロシアが其處に乘じ背後を衝くにあり時にオーストリア・ハンガリアは領内人種甚多く常に一致を欠くのみならず殊にスラフ種甚多くしてロシアの乗ずると

五十億フランの償金及アルサスロレンの二州を割讓せしめたり

一七十八年八月にドイツとフランスとが議長たり

ころとならんとを思ふるを以て有半の際此二國は兵力を擧げ外敵に當らんことを盟約せり然るにイタリアは兼て熱望するナポレオンをフランスの爲めに保はれしよりフランスとの軋轢益甚しく遂にイタリアは此同盟に加入し始めて三國同盟を形成するに至れりドイツは爾來殆んと二十年間歐洲の外交を指導したり殊に千八百七十七年露土戰爭起りロシア軍コンスタンチノールに迫らんとするに至りサンスタフハノ條約を結びて媾和せしが此條約に對し列國の故障起り遂にベルリン會議を開くに及びてドイツは非て普佛戰爭の時ロシアがドイツに對し好意を以て中立せしに拘らずドイツはロシアの強大に赴くを好まざるを以て此會議に於てロシアを助けずサンスタフハノ條約に於て得たる權利の大部を破棄しボスコア・ヘルツェゴビナをオーストリアの保護地としバルカン諸國を獨立せしめたり是よりロシアは大にドイツを怨み漸次フランスに近くに至れり然るに三國同盟はイタリアの財政窮乏するに至り又オーストリアの國內一致を欠くありて次第に其勢を減じたりしが千九百年に至り露佛二國同盟の成りしより急頓挫しドイツの地位

大に薄弱となれり然れども此三國同盟は今日猶繼續し依然として歐洲
平和の擔保者たる位置を失はず。

●露佛同盟 フランスは極端なる共和國なり之に反してロシアは君主
專制國なるを以て此二國同盟せば互に其國體を害せんことを恐るゝの
みならずフランスの内閣は屢更迭して對外方針の變更する患あるが故
に普佛戦争後此二國同盟を講ずるもの多かりしも容易に成立せざりき
然るにフランスは軍備を充實し且外交の方針を一定し内閣の更迭に伴
ふて變更せざることをせしより露佛互に相信するに至りたるのみなら
ず外敵を同くするを以て遂に攻守同盟を結ぶに至れり是に於て三國同
盟と相對峙し少時歐洲列國間の平衡を得たりしが互に競争の結果今や
實に左表の如き有様を現出するに至れり。

| 國名 | 陸軍 | | 國名 | 陸軍 | |
|--------|-----------|-----------|------|-----------|-----------|
| | 平時 | 戰時 | | 平時 | 戰時 |
| ドイツ | 550,000 | 2,500,000 | ロシア | 850,000 | 3,500,000 |
| オーストリア | 350,000 | 1,800,000 | フランス | 530,000 | 2,400,000 |
| ハンガリア | | | | | 680,000 |
| 合計 | 1,250,000 | 5,100,000 | 合計 | 1,910,000 | 6,580,000 |

| イギリス | 合計 |
|-----------|-----------|
| 280,000 | 1,250,000 |
| 1,500,000 | 5,100,000 |
| 290,000 | 1,910,000 |
| 合計 | 1,380,000 |
| | 6,580,000 |
| | 1,210,000 |

一千八百九十六年(明治廿八年)

以上示す如く遂に此兩同盟の兵力に差異を來し三國同盟は漸次壓倒せ
らるゝの傾向ありドイツは兼てより此差異を生ずる傾向あるを察し是に
對する處置に苦みしが日清戦争の結果馬關條約締結せらるゝに及びロ
シアが兼て熱望せる遼東の地我領土に歸せしを以てロシアは之を好ま
ざりしがドイツはロシアフランス兩國聯合して我邦に遼東還附の忠告
を試み若し成功せば露佛間の親交は益鞏固となり自國の地位愈危險な
るを以てロシアの獨力我邦に干渉する力なきを以て大に煩悶するに際
し露佛と聯合して我邦に忠告するに至れり爾來歐洲列國大に力を東洋
に注ぎドイツ先づ膠洲灣を借領し尋でロシアは旅順口大連灣等フラン
スは廣州灣を借領しイギリス亦東洋に於ける國力權衡上威海衛を借領
せり而してロシアはイギリスが南阿戦争の爲め力を東洋に注ぐ能はざ
るを機とし清と條約を定め東清鐵道敷設の權を得又其關係を有するべ

ルギーレンヤケートをして濠洲鐵道敷設權を得せしめたり。

●日英同盟 歐洲大陸諸國互に合縱連衡を事とするに當りイギリスは獨り名譽ある孤立を誇り専ら力を商工業に注ぎ自國を利するに餘念なかりき蓋しイギリスは其内閣の交迭毎に外交の方針を變ずるを以て他國と攻守同盟を結ぶも若し其期限内に内閣の交迭するが如き事あらば條約を履行する能はざるの恐あるのみならず一方に於て同盟の爲め優勢を占むるも他方に於て同盟國の力を利用すること能はざるを以て他國と同盟を結び爲に敵を多くせんよりは寧ろ獨力獨行を便としたりき然るに日清戦争の結果支那の國力世界に暴露するに及び諸列強大に力を東洋に注ぐの時に當りイギリスはトランスバールと戰端を

開き力を東洋に専らにする能はざるに際し北清擾亂の起るありロシアフランスドイツ等此間に於て大に利を得地を劃せんと計る等殆んど寧ろ日なきを以て我大日本帝國は清韓二國の保全を危みて此二國の獨立と領土とを保全し東洋の平利を維持するを目的とし兼て此二國に於ける我臣民の生命財産を保護せんことを希望し、イギリス亦我と希望を同くするを以て遂に日英攻守同盟を結び以て此二國扶植の大任に當れり尋で露佛亦此同盟と同希望を有すること宣言せり而して幾もなくトランスバール戦争終局を告げにき

條約國に駐在し外交の事務を處置し樽俎の間に國權を保護し利益を増進すべき重大なる任務を負ふものは公使にして、領事は主として通商と

視察し貿易及在外民を保護す今我邦の公使館及領事館所在地を導ぐれば左の如し

日本公使館所在地

- ワシントン
- ロンドン
- サンクトペテルズブルグ(モスクワに隣)
- ハーグ(オランダ)
- パリ
- ベルリン
- ブダペスト
- ローマ
- ウィーン(オーストリア)
- 京城
- バンコク
- マニラ(フィリピン)
- 北京
- リオデジャネイロ
- マドリード(スペイン)

日本總領事館所在地

- モントリオール
- セントポール
- シヤンハイ
- モスクワ
- ロンドン
- セントリノ
- シヤンハイ
- マニラ
- リオデジャネイロ

上海(領事館は、開港、) (日本に分館あり) 天津

日本領事館所在地

- 釜山
- 馬山
- 仁川
- 京城
- 木浦(蔚山に分館あり)
- 元山(咸興に分館あり)
- 鎮南館(平壤に分館あり)
- 牛莊
- 芝罘
- 杭州

蘇州 沙市(漢口に隣) 重慶 廈門(福州に隣) 福州(福州)

漢口 香港(領事館は、開港、) (廣州に隣) 汕頭(廈門に隣) 香港(廣州に隣)

シンガポール(英領) (マラヤ半島) 仰光 (英領) 宿務(フィリピン)

ホノルル (ハワイ) 東京 (日本) 神戶 (日本) 横濱 (日本) 上海 (日本) 天津 (日本) 北京 (日本) 漢口 (日本) 廣州 (日本) 香港 (日本) 汕頭 (日本) 廈門 (日本) 福州 (日本) 蘇州 (日本) 沙市 (日本) 重慶 (日本) 廈門 (日本) 福州 (日本)

日本名譽領事所在地

- メルボルン
- メルセーユ
- アムステルダム
- ウィーン
- ミッドルスマラ
- ナール
- ニューオーレルアンヌ
- メルボルン
- メルセーユ
- アムステルダム
- ウィーン
- ミッドルスマラ
- ナール
- ニューオーレルアンヌ
- メルボルン
- メルセーユ
- アムステルダム
- ウィーン
- ミッドルスマラ
- ナール
- ニューオーレルアンヌ

最新外國地理教科書 下卷終

明治三十五年十二月廿八日印刷
明治三十六年一月八日發行

最新外國地理下卷

定價金四拾五錢

編纂者 中等教授法研究會

發行者 東京市日本橋區本石町三丁目十二番地 杉本 七百九

全 市全區 榑 原 友

全 市京橋區南條町三丁目五番地 目 黑 其 七

全 市日本橋區本石町三丁目七番地 小 林 喜 太 郎

全 市京橋區南條町三丁目五番地 目 黑 十 郎

印刷者 全 市龜町區有樂町三丁目一番地 大 西 鍊 三 郎

印刷所 全 市京橋區馬町二十四番地 三 協 合 發 行 會 社

日本橋區本石町三丁目十二番地

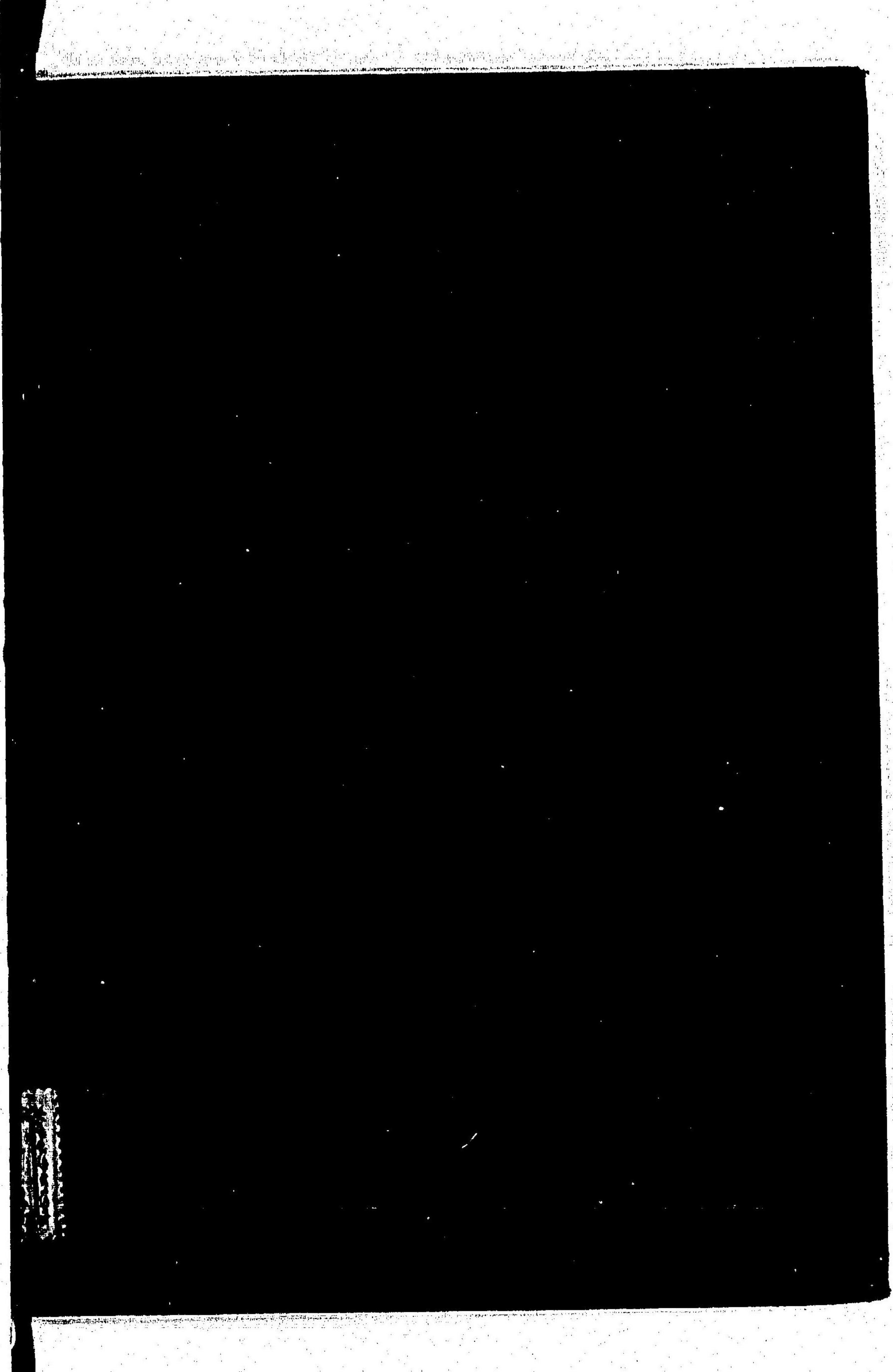
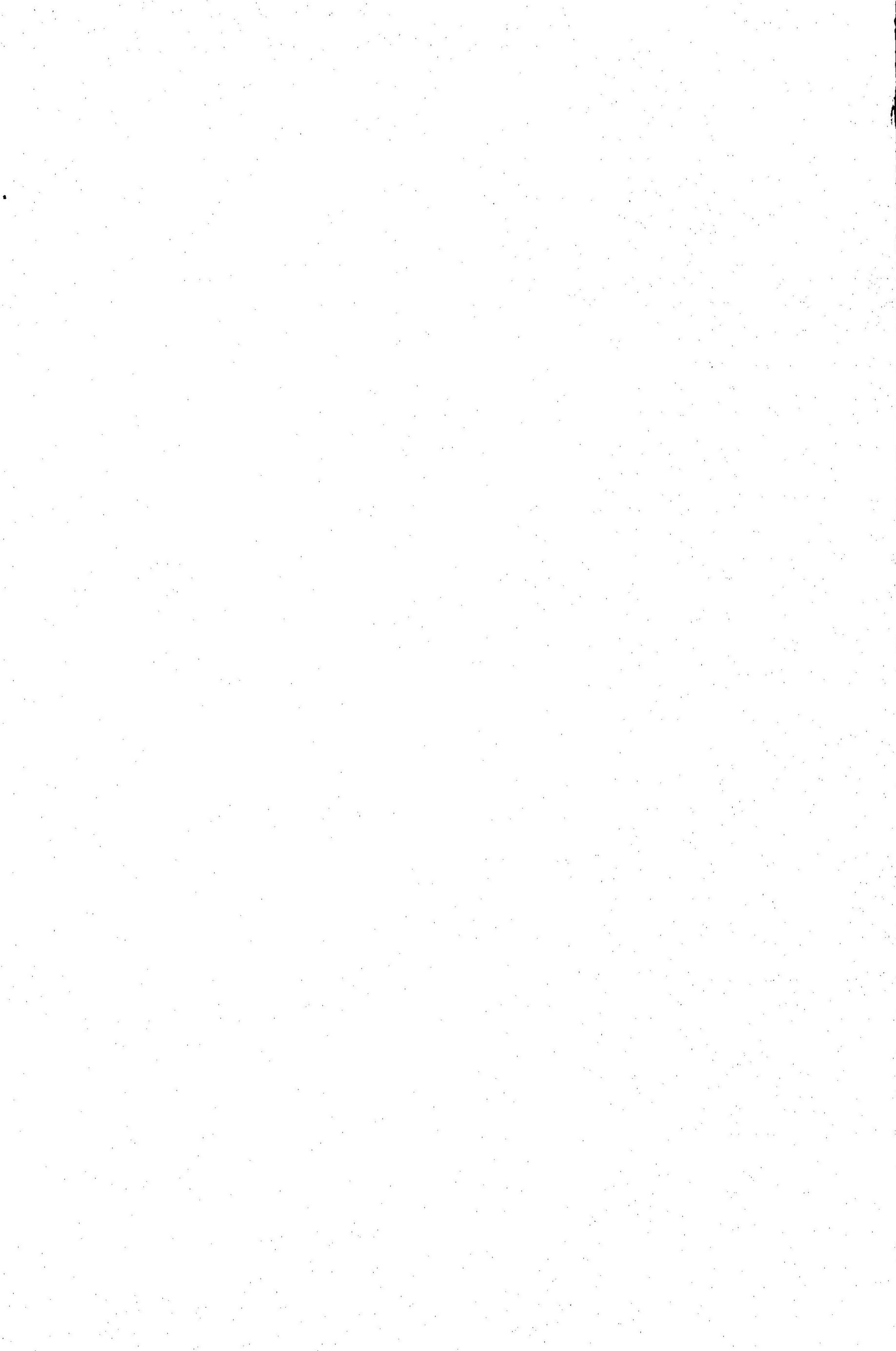
發行所 六 盟 館

(電話本局一六九八)



版權所有

六盟館版



86
308

